

豊かな学びで資質・能力を育む

いわての複式指導 実践事例集



はじめに

本県では、約3割の小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた社会を創造する能力を育てる「人間形成」のために欠かすことのできない視点となっています。

また、ここ数年の状況を見ますと、県内の各地域において新たに複式学級を編成する学校があり、複式指導を初めて担当する教員への支援が課題となっています。

本県には、長年にわたり培われてきた複式指導に関する知識や技術が蓄積されており、各学校で直接指導と関節指導を組み合わせた不断の授業改善が進められております。

本実践事例集は、それらの優れた実践を広く共有することにより、本県の複式指導の充実を図ることを目的として、県内各地の実践からぜひ参考にしたいポイントをまとめております。

複式指導を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援する資料として活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室

《 目 次 》

実践事例1	【算数5・6年】花巻市立笹間第二小学校	1
実践事例2	【算数3・4年】一関市立興田小学校	8
実践事例3	【国語3・4年】釜石市立栗林小学校	19
実践事例4	【道徳3・4年】岩泉町立大川小学校	26
実践事例5	【国語5・6年】洋野町立角浜小学校	33
実践事例6	【算数5・6年】九戸村立江刺家小学校	40

(表紙写真) 岩泉町立大川小学校

算数 5・6年

花巻市立笹間第二小学校 令和3年6月11日(金)

第5学年 わり算の世界を調べよう
(東京書籍「新しい算数5上」P59)

第6学年 分数のわり算を考えよう
(東京書籍「新しい算数6」P60, 61)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



- 指導の4段階(導入・展開①・展開②・終末)をずらさず、時間配分をずらして組み合わせた実践です。それぞれの学年に直接指導した方がよい場面には、各段階の時間配分をずらしてわたるようにします。児童の一単位時間の学習を崩さずに指導することが可能です。

また、単元によっては、両学年の学習内容を関連させて指導した方が理解を深められる場合があります。本実践では類似内容指導を可能にするために、単元計画が工夫されています。

終末場面では、お互いの学習内容の共通性や関連性、学びの連続性に気付かせる場がしっかりと位置付けられ、学習の深まりや広がりを実感することができます。



「指導の4段階をずらす、ずらさない」「わたりの回数を最小限にする、複数回行う」など、指導過程については児童の実態や教科・単元の内容によって、柔軟に考えることが大切です。「ずらす、ずらさない」どちらにもメリット、デメリットはあるものです。「直接指導した方がよい学習活動は何か?」「両学年で共通に扱う内容や方法はあるか?」など、教材の本質をしっかりと抑え、本時のねらいを明確にもつことが大切です。

- 本実践では「問題把握」「自力解決」「話し合う」「確かめる」の場面で、主に間接指導が組みられています。この間接指導を充実させるために、直接指導では「本時の課題は何か」「課題を解決するためにどうすればよいか」「どう進めていくのか」という課題解決に必要な一步目を指導しています。「何を、何のために、どのようにするのか」、直接指導で課題解決に向けて何を考えさせるのかを明確にすることで、児童の活動が停滞しないように工夫されています。

また、間接指導は児童の主体的に学ぶ力を育むチャンスです。一人でも多様に考えられるように教科書の登場人物をクラスの一員とする、複数人で考えを共有する際にICTを活用するなど、自分たちでじっくりと考える時間を確保し、思い切って児童に活動を任せることが、主体的に学ぶ力の育成につながります。



複式指導における直接指導の時間は限られていますから、指導内容の精選(焦点化・スリム化・効率化)とともに、教科書をうまく活用していくことがポイントです。

また、間接指導を「教師が直接指導できない場」と捉えるのではなく、「子供たちだけで主体的に学習を進める場」と捉えましょう。子供たちだけで主体的に学習を進めるためには、直前の直接指導での発問や指示の工夫に加え、日々の授業を通して「学び方」を身に付けさせていくことが重要です。「困ったときはどうするのか」「早く終わったらどうするのか」など、教師の指示を待たなくても自分で判断して活動できる力を育てていくことが、間接指導の充実につながります。

第5・6学年 算数科学習指導案

令和3年6月11日(金)6校時(14:20~15:05)

児童 5学年 女1名 計1名

6学年 男3名 女1名 計4名

授業者 柵山 千恵

1 単元名・教材名

	5年	6年
単元名	小数のわり算	分数のわり算
教材名	わり算の世界を広げよう	分数のわり算を考えよう

2 単元の目標と学習指導計画

(1) 5年

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 小数のわり算 上p.52~61 8時間			
1	<p>〔プロローグ〕 上p.52</p> <p>小数でわることを意味を 図や式を用いて考え、説 明することができる。 上p.53~54</p>	<p>①わり算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、除数が小数の場合のわり算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)</p> <p>②自分の考えで立式する。 ③その式になる理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。 ④「1とみたとき、〇にあたる」という既習の倍の見方を活用して、除法の意味をとらえ直す。</p>	<p>〔思判表〕÷小数の意味について、既習の倍の見方を活用して考え、説明している。【観察・ノート】 〔態度〕÷小数について、既習の除法の意味(全体量÷何こ分)が適用できないことに気づき、図や式を用いてその意味を考えようとしている。【観察・ノート】</p>
2	<p>整数÷小数の計算の仕方を、数直線を用いて考え、説明することができる。 上p.55~56</p>	<p>①300÷2.5の計算の仕方を考える。 ②300÷2.5の計算の仕方をまとめる。</p>	<p>〔知技〕整数÷小数の計算の仕方を、既習の計算や数直線を用いて考え、答えを求めることができる。【観察・ノート】 〔思判表〕整数÷小数の計算の仕方を、小数の構成や除法の性質に着目して整数の計算に帰着して考え、説明している。【観察・ノート】</p>
3	<p>小数÷小数の計算の仕方を、除法の性質を基に考えることを通して、小数÷小数の筆算の仕方を理解する。</p>	<p>①立式を考える。 ②除法の性質を活用して、7.56÷6.3の計算の仕方を考える。</p>	<p>〔知技〕小数÷小数の計算の仕方を、除法の性質を活用して考え、答えを求めることができる。【観察・ノート】 〔思判表〕除法の性質に着目して、小数÷小数の計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
4	<p>上p.56~58</p>	<p>①小数÷小数の筆算の仕方をまとめる。 ②練習問題に取り組む。 *デジタルコンテンツ設定有</p>	<p>〔知技〕小数÷小数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 〔思判表〕除法の性質に着目して、小数÷小数の筆算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>
5	<p>小数÷小数の筆算(商が純小数の場合、被除数に0を補う場合)の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上p.58</p>	<p>①2.34÷3.9, 1.8÷2.4, 8÷2.5の筆算の仕方を考える。 ②練習問題に取り組む。</p>	<p>〔知技〕小数÷小数の筆算(商が純小数の場合、被除数に0を補う場合)の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 〔思判表〕被除数と除数に着目して、商の一の位に0を書くことや、被除数の末尾の0を補うことを考え、説明している。【観察・ノート】</p>
6	<p>純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、説明することができる。 上p.59</p>	<p>①240÷1.2と240÷0.8の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ②純小数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。</p>	<p>〔知技〕除数が純小数の場合は、商が被除数より大きくなることを理解している。【観察・ノート】 〔思判表〕除数が純小数の場合の被除数と商の大きさについて、数直線を用いて考え、説明している。【観察・ノート】</p>
7	<p>小数の除法での余りの意味を理解し、余りを求めることができる。 上p.60</p>	<p>①2.5mのリボンを、1人に0.7mずつ配ると何人に配れて、リボンはどれだけ余るかを考える。 ②小数の除法の、余りの小数点をうつ位置についてまとめる。</p>	<p>〔知技〕小数の除法で余りの小数点の位置を理解し、余りを求めることができる。【観察・ノート】 〔思判表〕小数の除法での余りの意味について、被除数の小数点の位置に着目して考え、図や式を用いて説明している。【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
8	小数の除法で商を概数で求めるときの処理の仕方を理解し、商を概数で表すことができる。 上p.61	①1.5Lの砂の重さが2.5kgのときの、1Lの砂の重さは何kgか考える。 ②わり切れないときの商の表し方について考え、上から2桁の概数で求める。 ③わり算でわり切れないときや商の桁数が多いときなどに、商を概数で表すことがあることをまとめる。	[知技] 小数の除法の商を概数で表す方法を理解し、商を概数で表すことができる。【観察・ノート】 [態度] 小数の除法で商を概数で表す方法を、既習を基に考え、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
まとめ	上p.62~63, 144 時間		
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.62~63	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表] 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度] 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
【発展】巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、学習内容を基に小数の除法についての理解を深める。			

(2) 6年

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 分数のわり算 p.54~67 6時間			
1	[プロローグ] p.54	①わり算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、未習の分数のわり算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	分数でわることを意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 p.55~56	① $3/4$ dLのペンキで $2/5$ m ² 塗れるとき、1dLで塗れる面積を求める式を考える。 ②その式になる理由を考え、説明する。 ③除数が小数の場合の除法などを想起しながら、除法の意味をとらえ直す。	[思判表] 分数でわることを意味を図や式を用いて考え、説明している。【観察・ノート】 [態度] 分数÷分数の計算の意味や計算の仕方に関心をもち、既習の計算や除法の性質に関連づけて考えようとしている。【観察・ノート】
2	分数÷分数の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明することができる。 p.57~59	① $2/5 \div 3/4$ の計算の仕方を考える。 ②分数÷分数の計算の仕方をまとめる。 ③計算練習をする。	[知技] 分数÷分数の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表] 分数÷分数の計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて説明している。【観察・ノート】
3	計算の途中で約分できるときは、途中で約分すると簡単に計算できることを理解する。 3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、その計算ができる。 p.59~60	① $9/14 \div 3/4$ の計算の工夫の仕方を考える。 ② $3/4 \div 6/5 \times 1/5$ の計算の仕方を考える。 ③計算練習をする。	[知技] 途中で約分できる分数の除法計算や3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 [態度] 計算の途中で約分すると簡単に処理できることよきに気づいている。【観察・ノート】
4	整数÷分数の計算や、帯分数の除法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 真分数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。 p.60~61	① $4 \div 9/2$, $2/3 \div 3$ と $1/5$ の計算の仕方を考える。 ② $12 \div 1$ と $1/3$ と、 $12 \div 2/3$ の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ③真分数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。	[知技] 整数÷分数、帯分数の除法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表] 1を基準とした除数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、数直線を用いて考え、説明している。【観察・ノート】
5	数直線を用いた除法の演算決定について理解を深める。 p.62	① $7/4$ mの重さが $2/5$ kgのホースについて、ホース1mの重さ、及びホース1kgの長さを求める式を、数直線を活用しながら考える。	[思判表] 問題場面に合った除法の立式の根拠について、数直線を用いて考え、説明している。【観察・ノート】
6	[今日の深い学び] 分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明することができる。 p.63~67	① $0.3 \div 3/2 \times 3$ の計算の仕方を考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③間違った計算を正し、計算の順序を振り返る。 ④ $0.2 \div 2/3 \times 3$ の計算の仕方を考える。 ⑤分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方をまとめる。 ⑥計算練習をする。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表] 分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】 [態度] 主体的、対話的に粘り強く学習に取り組むとともに、既習事項を活用して問題解決したことを振り返り、価値づけている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ p.68～69, 260 1時間			
7	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.68～69	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
【発展】巻末 p.260 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組む、単元の学習内容を数学の世界で活用し、分数の除法についての理解を深める。			

3 本時の指導

(1) 目標

5年(6/9)	6年(4/7)
純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、説明することができる。	真分数でわると、商は被除数より大きくなることを理解することができる。

(2) 主とする評価規準

5年			6年		
純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、説明することができる。			真分数でわると、商は被除数より大きくなることを理解することができる。		
A	B	支援・手立て	A	B	支援・手立て
除数が純小数の場合の被除数と商の大きさについて、数直線を用いて考え、筋道を立てて説明している。 (観察・ノート)	除数が純小数の場合の被除数と商の大きさについて、数直線を用いて考え、説明している。 (観察・ノート)	除数が1と比べてどのような数であるかを確認、商と比べさせる。	1を基準とした除数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、数直線を用いて考え、説明している。 (観察・ノート)	1を基準とした除数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、説明している。 (観察・ノート)	除数が1と比べてどのような数であるかを確認、商と比べさせる。

(3) 少人数を生かした指導の工夫

①5年

児童は、昨年度から学年1名となり、自力解決後に自分の考え方と教科書にある解き方について比較しながら一人学びを進めてきている。そこで、自力解決後に教科書にある解き方と比較して目標である被除数の違いに気付かせたい。また、授業時間内に適用問題などを解くことにより、理解を深めさせたい。

②6年

児童は、問題文を数直線に表しながら把握し解くことができる。そこで、自力解決でも数直線を用いて数関係をおさえて立式させる。そして、リーダー学習の中で、自分達の数直線から除数の大きさと商の大きさの関係について気付かせたい。さらに、5年生の学習内容と比べながら、その関係は、既習の小数でも同じであることに関連付けてまとめさせたい。

(4) 展開

5学年				6学年		
過程	学習内容と活動	留意点	形態	学習内容と活動	留意点	過程
つかむ	1. 問題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1. 2mの代金が240円の赤いリボンと、0.8mの代金が240円の青いリボンがあります。 1mのねだんは、それぞれいくらですか。 </div>	【視点2】 ・教科書の数直線を参考にノートに数直線をかかせる。		1. 既習事項から考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $\textcircled{1} 4 \div \frac{9}{2} \quad \textcircled{2} \frac{2}{3} \div 3\frac{1}{5}$ </div> ・整数を $\frac{4}{1}$ と考える。 ・帯分数を仮分数に直して計算する。	【視点1】 ・既習事項を想起させてから、取り組ませる。	つかむ
	2. 問題を解く ・数直線にかく。 ・立式する。		2. 問題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $3\frac{1}{5}$mの重さが12gの細い針金と、$\frac{1}{5}$mの重さが12gの太い針金があります。 1mの重さは、それぞれ何gですか。 </div>			
考える	3. 課題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> わる数の大きさと商の大きさの関係を調べよう。 </div>			3. 問題を解く ・数直線にかく。 ・立式する。		考える
	4. 見通しをつける ・数直線をもとに考える。		4. 課題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> わる数の大きさと商の大きさの関係を調べよう。 </div>			
	5. 自力解決 ・わる数が1より小さいとき、商はわる数より小さくなる。 ・わる数が1より大きいとき、商はわる数より大きくなる。	・除数と商の大きさの関係がどの場合にも当てはまることを実感させたい。		5. 見通しをつける ・数直線をもとに考える。 ・既習事項から1を基準にして関係を見る。		
6. 確かめる ・問題文を参考にして、考えた数をあてはめ、数直線に書き込む。	6. 自力解決 ・自分の言葉で説明できるようにする。					

ま と め る	7. まとめる 1より小さい数でわると、 「商>わられる数」となる。			7. 話合う ・自分達の数直線をもとに気づいたことから、まとめへとつなげる。	【視点2】 ・自分達のノート を画面に映して話合う。	
	8. 練習問題を解く ・P59 5・6 ・算数の力			8. まとめる 1より小さい数でわると、 「商>わられる数」となる。		ま と め る
	9. 学習を振り返る ・本時で学んだことを書く。	【視点1】 ・次学年でも同じまとめをしていることに気付かせる。		9. 練習問題を解く ・P61 5		
			10. 学習を振り返る ・本時で学んだことを書く。	【視点1】 ・前学年での学習と同じまとめであることからさらに理解を深めさせる。		

(5) 評価

①5年

純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、説明している。

②6年

真分数でわると、商は被除数より大きくなることを理解している。

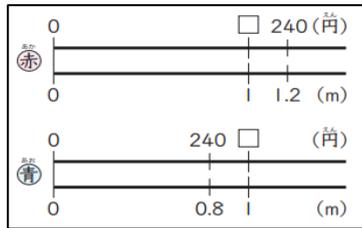
(6) 板書計画

①5年

問 1.2mの代金が240円の赤いリボンと、0.8mの代金が240円の青いリボンがあります。

1mのねだんは、それぞれいくらですか。

課 わる数の大きさと商の大きさの関係を調べよう。



③ 1より小さい数でわると、「商>わられる数」となる。

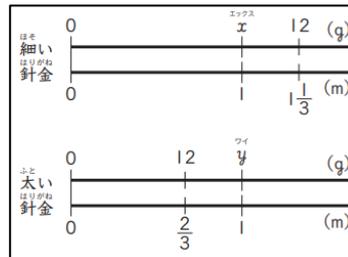
②6年

① $4 \div \frac{9}{2}$ ② $\frac{2}{3} \div 3\frac{1}{5}$

課 わる数の大きさと商の大きさの関係を調べよう。

問 $3\frac{1}{5}$ mの重さが12gの細い針金と、 $\frac{1}{5}$ mの重さが12gの太い針金があります。

1mの重さは、それぞれ何gですか。



③ 1より小さい数でわると、「商>わられる数」となる。

算数 3・4年

一関市立興田小学校

令和3年10月5日(火)

第3学年 わり算や分数を考えよう
(東京書籍「新しい算数3上」P115)

第4学年 わり算の筆算を考えよう
(東京書籍「新しい算数4上」P109)

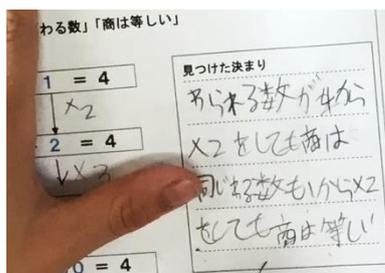
本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○児童の思考時間の確保

両学年とも「既習をもとに自力で考える時間」が十分に確保されています。導入や見通しに時間をかけすぎると、授業後半に進むにつれて直接指導の時間が短くなり、教師主導になりがちです。授業前半でテンポよく「できそう？まずはやってみよう」と児童に預け、自力解決の中で表出した「迷い」や「つまずき」を児童が話し合う場を設けることで、粘り強く、自己調整しながら解決に向かう姿を引き出しています。



左の写真は、自力解決で児童が書いた説明です。表現に不十分などが見られますが、すぐに指導者が介入して修正させるのではなく、児童同士で表現を吟味する時間をとり、児童の考えを活かしながらわり算の性質を見出していました。

このように、子供たち自身で評価・改善する力が計画的・意図的に育まれており、間接指導の充実につながっています。



指導者は、学習の様子を見取りながら、児童の困り具合を的確に把握し、介入するところと児童に任せるところを明確にしています。間接指導を充実させる上で、子供が自立的に学ぶ力を育むことが重要であり、困ったときに相談したり、相互評価を通じて改善したりすることを「学び方」として身に付けさせていくことが大切です。

また、ノート(ワークシート)を評価材料とするために、自分の考えを言葉や図、式などを用いて表現する力を育むことを意識しています。これにより、授業後に間接指導時の児童の思考の様子を見取り、指導と評価の一体化につなげています。

○1人1台端末の効果的な活用

本実践では、「ずらし」のある展開が組まれています。4年生が自力解決に入るまでの直接指導を受けている間、3年生は右の写真のように1人1台端末を用いてドリル学習に取り組みました。

指導者の「〇年生ちょっと待っててね。」といった声が全くない45分間でした。指導者の動きや発問が精選されており、どの児童も、今何をすべきか、何を考える時間かを把握し、粘り強くわり算の学習に取り組む姿が見られました。



授業支援ソフトやデジタルコンテンツ、習熟に応じたドリル学習など、子供の自立的な学びをサポートするツールとして、1人1台端末の効果的な活用が期待されます。

第3・4学年 算数科学習指導案

日 時 令和3年10月5日(火) 3校時
場 所 3・4年教室
児 童 3年3名(男子1名 女子2名)
4年8名(男子6名 女子2名)
指導者 千葉 祥子

[3年生]

1 単元名 わり算や分数を考えよう(東京書籍 3年上)

2 単元について

(1) 教材について

本単元で扱う除法や分数は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

第3学年 A数と計算

- (4) 除法に関わる数学的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともにその性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。
- (6) 分数をその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

除法については、第3学年第3単元で、除法の意味や乗法九九を1回適用してできる除法計算の意味と計算方法について学習している。また前単元では、数の構成に着目し、2位数×1位数の計算の仕方を考えている。分数については、第2学年第16単元で、同じ大きさに分けた1つ分の表し方として、分数を学習している。

(2) 児童について

略

(3) 指導について

本単元前半では、既習を踏まえ、簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を考える。そして、被除数を10を基にとらえたり、位ごとに分けて計算したりすることで既習の乗法九九1回適用の除法計算に帰着させていく。本単元後半では、80cmの4分の1の長さの求め方を考えることを通して、分数と除法を関係づけていく。80cmの4分の1の長さは、 $80 \div 4$ の除法の式で求めることができることを、既習の分数の意味に着目し、等分されたテープ図を基にしながら理解できるようにしていく。

単元全体を通して、少人数の中でも、個人→グループ、児童の互いのつぶやきや発表をつなぐことで次の考えを引き出すなど、児童同士の対話を常に位置づけた学びを大事にしていきたい。

3 単元の目標

○簡単な場合について除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程をふり返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識・技能】・簡単な場面の2位数÷1位数の計算の仕方について理解し、説明している。

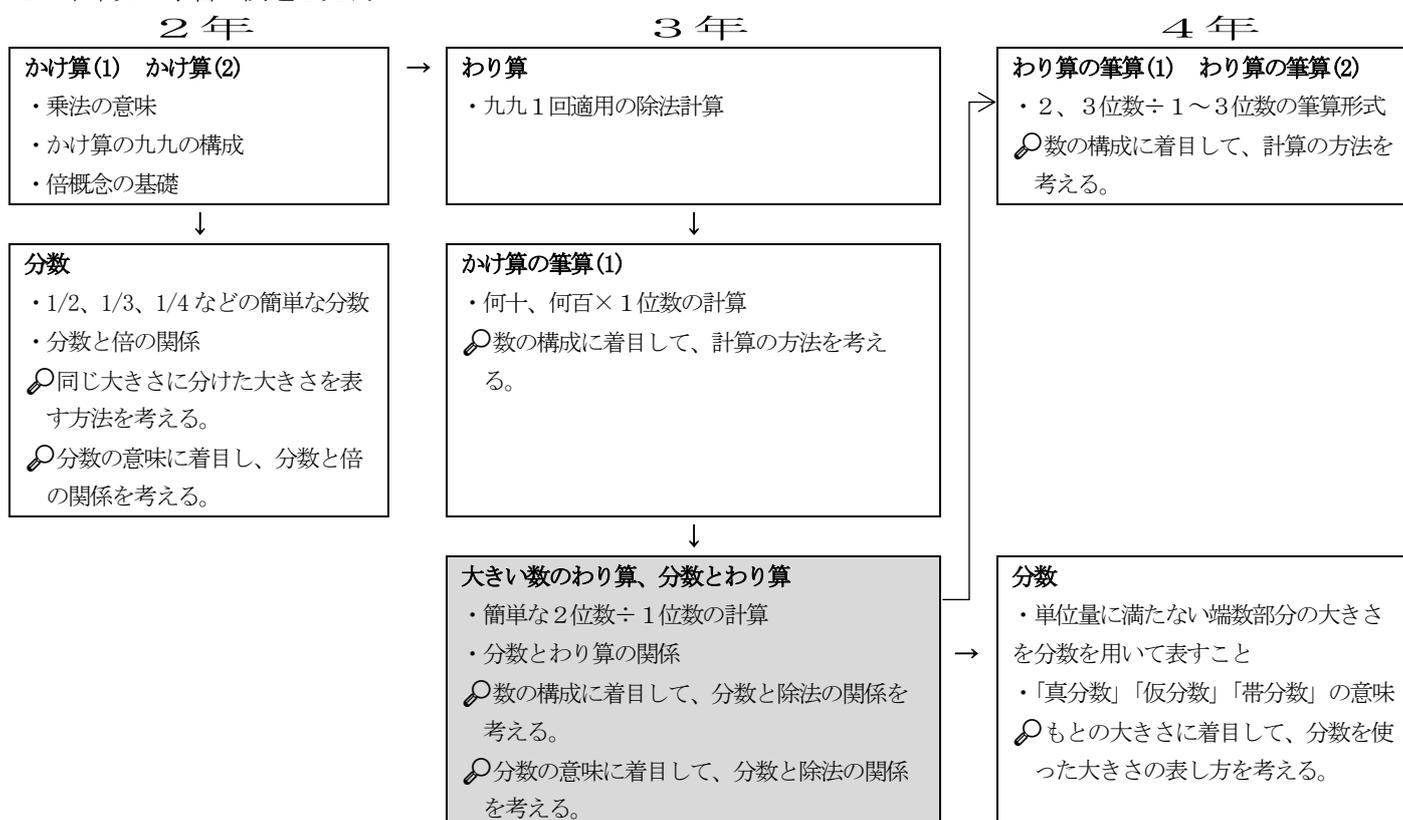
・分数で表される場面を適切にとらえ、除法を用いて答えを求めることができる。

【思考・判断・表現】・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、既習の計算の仕方や図などを用いて、数の構成に着目して考え、説明している。

- ・等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。

- 【 態 度 】
- ・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、具体物や図、式を関連づけたり、既習の計算の仕方などを基に考えたりしながら、その過程をふり返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようと考えている。
 - ・分数と除法の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程をふり返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

4 本単元の学習の関連と発展



5 単元の指導・評価計画（4時間）

時	目標	学習活動	主な評価規準
(1) 大きい数のわり算 上p.114～115 2時間 ※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
1	60÷3などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上p.114	①60÷3の計算の仕方を、60を10の6こ分ととらえて既習の計算を使って考える。 ②適用問題に取り組む。	[知技]簡単な場合の何十÷1位数の計算の仕方について理解している。【 観察・ノート 】 [思判表]60÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。 【 観察・ノート 】
2 本 時	69÷3などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上p.115	①69÷3の計算の仕方を、69を60と9に分けて考える。 ②適用問題に取り組む。	[知技]簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について理解している。【 観察・ノート 】 [思判表]69÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。 【 観察・ノート 】 [態度]図や式を関連づけ、既習を基に考えたことを振り返り、学習に生かそうとしている。【 観察・ノート 】

時	目標	学習活動	主な評価規準
(2) 分数とわり算 上p.116～117 2時間			
3	分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。 上p.116	①80cmの1/4の長さの求め方を考える。 ②分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。	[知技] 分数の「等分する」という考えを用いて、分数で表された数を計算して求めることができる。 【観察・ノート】 [思判表] 等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。 【観察・ノート】
4	もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。 上p.117	①84cmや88cmの1/4の長さを求める。 ②もとの長さの1/4の長さが異なる理由を考える。 ③もとの大きさと分数の関係をまとめる。	[知技] もとの大きさに着目して、1/4の長さが異なる理由を考え、説明している。 【観察・ノート】 [態度] 分数と除法の関係を用いて計算することのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。 【観察・ノート】

6 本時の指導 (2 / 4時間)

(1) 本時の目標

○ $69 \div 3$ などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。

(2) 本時の主な評価規準

評価規準	B	Bに至らない児童への支援
〔思考・判断・表現〕 $69 \div 3$ などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。	位ごとに分けて計算すれば、既習の除法計算ができることを、図や式を用いて説明することができる。	69 を 60 と 9 に分けること、前時の $60 \div 3 = 20$ を想起させる。また、学び合いの場で友達の考えから理解を図れるようにする。

(3) 研究との関わり 【考えを深め広める工夫】

ア 発問の工夫

- ・発問によって、前時の学習から学びが連続していることに気づかせ、本時につなげる流れを大事にする。
- ・児童のつぶやきを取り上げて共有し、思考の助けとする。

イ 書く活動の工夫

- ・間接指導時に、自力解決が図りやすいよう、次の話し合いに向かうための自分の考えをまとめやすいよう、板書とノートを連動させる。

ウ 話し合いのさせ方の工夫

- ・自力解決から学び合いへ思考が途切れないように、3人で確かめ合わせる流れを作る。その際、図と式がつながっているかを視点として与えておく。

[4年生]

1 単元名 わり算の筆算を考えよう (東京書籍 4年上)

2 単元について

(1) 教材について

本単元で扱う2～3位数÷2位数の計算は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

第4学年 A数と計算

(3) 整数の除法に関わる数学的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

(イ) 除数の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

(ウ) 除法について、次の関係を理解すること。

$$(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$$

(エ) 除数に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見出したりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

整数の除法計算は第3学年から学習を始め、第4学年第3単元「わり算の筆算(1)」で除数が1位数の場合の筆算を学習した。本単元では、除数が2位数で被除数が2～3位数のときの筆算に発展させる。

(2) 児童について
略

(3) 指導について

本単元では、除数を何十の数とみることで商をたてる。まずは、除数を何十とみることで、九九を適用して商の見当をつけることができる。21を20とみたり29を30とみたりすることがこれにあたる。25などについては、被除数に着目したうえで、20とみたり30とみたりするなど柔軟な見方ができるようにすることを大切にしたい。また、仮商をたてたり、たてた商の修正を行ったりする際にも、2位数×1位数の計算を暗算で行い、見積もりに生かすことも大切に扱っていく。

単元の後半では、わり算の性質についても学習する。その際、除数、被除数、商を、式と式を見ながら比較し、その関係を見出していく。児童自らが関係を見出していくことができるよう間接的指導の工夫が必要である。また見出した性質について、単元の初めに扱った $60 \div 20$ の場面をふり返し、東の考え方についても、わり算の性質が使われていることを確かめ、働かせた見方・考え方を価値付けていきたい。

単元全体を通して、少人数の中でも、個人→ペア→全体と、児童の互いのつばやきや発表をつなぐことで次の考えを引き出すなど、児童同士の対話を常に位置づけた学びを大事にしていきたい。

3 単元の目標

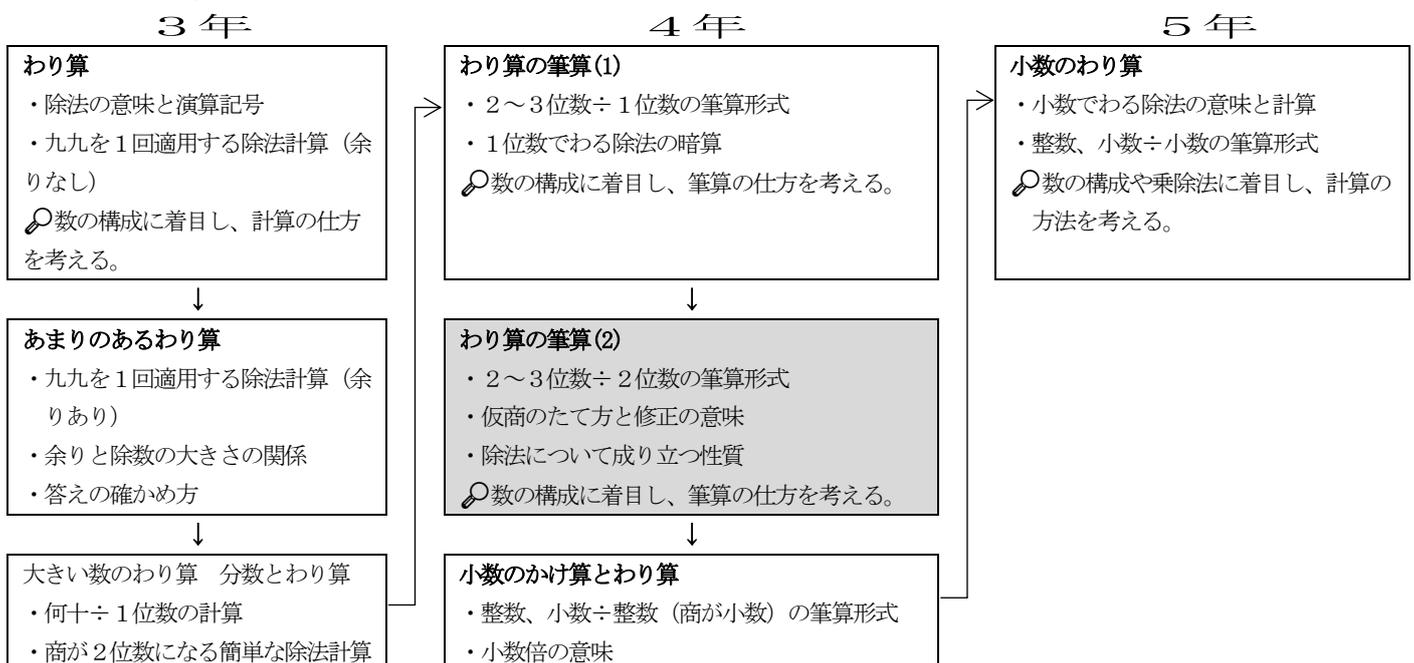
○ 2～3位数を2位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、基本的な計算を基に考えた過程をふり返し、今後の学習に生かそうとする態度を養う。

【知識・技能】・既習の除法の計算の仕方や数のまとまりを用いて2～3位数を2位数でわる除法の計算をすることができる。

【思考・判断・表現】・数量の関係に着目して、2～3位数を2位数でわる除法の計算の仕方を考え、説明している。

【態度】・2～3位数÷2位数の除法の計算方法を、既習の除法の計算を基に考えたことをふり返し、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

4 本単元の学習の関連と発展



5 単元の指導・評価計画（14時間）

時	目標	学習活動	主な評価規準
(1) 何十でわる計算 上p.96～98 1時間			
1	[プロローグ] 上p.96	①p.96 を提示し、既習の加減乗除の筆算について振り返り、除数が大きくなったときの除法の筆算方法について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	10のまとまりを用いて、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。 上p.97～98	<ul style="list-style-type: none"> ①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②$60 \div 20$ の計算の仕方を考える。 ③$60 \div 20$ の計算の仕方をまとめる。 ④計算練習をする。 ⑤$90 \div 20$ の計算の仕方を考える。 ⑥計算練習をする。 	<p>[知技]数のまとまりや図、既習の除法を用いて何十でわる計算をすることができる。</p> <p>【観察・ノート】</p> <p>[思判表]10のまとまりに着目し、何十でわる計算の方法を考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
(2) 2けたの数でわる筆算(1) 上p.99～105 6時間			
2	2位数 \div 2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.99～101	<ul style="list-style-type: none"> ①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②$84 \div 21$ の筆算の仕方を考える。 ③除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ④$84 \div 21$ の筆算の仕方をまとめる。 ⑤「ますりんつうしん」を読み、商の見当をつける際、被除数と除数の両方をまるめる方法があることを知る。 	<p>[知技]既習の除法計算を基に2位数\div2位数の筆算を用いた計算をすることができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]除数が何十の場合の計算や既習の筆算の仕方に着目し、2位数\div2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
3		<ul style="list-style-type: none"> ①$87 \div 21$ の筆算をする。 ②$87 \div 21$ の計算の検算をする。 ③計算練習をする。 	
4	2位数 \div 2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.102	<ul style="list-style-type: none"> ①$86 \div 23$ の筆算の仕方を考える。 ②除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ③過大商の場合の仮商修正1回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 ④$81 \div 12$ の筆算の仕方を考える。 ⑤過大商の場合の仮商修正2回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 	<p>[知技]商の見当を用いて、仮商をたて過大商のときの仮商を修正し計算することができる。【観察・ノート】</p>
5	2位数 \div 2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.103	<ul style="list-style-type: none"> ①$78 \div 19$ の筆算の仕方を考える。 ②除数を20(切り上げ)とみて、商の見当をつける。 ③過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 	<p>[知技]商の見当を用いて、仮商をたて過小商のときの仮商を修正し計算することができる。【観察・ノート】</p>
6	除数に着目して、2位数 \div 2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。 上p.104	<ul style="list-style-type: none"> ①$87 \div 25$ の筆算の仕方を考える。 ②除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。 ③自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。 ④計算練習をする。 	<p>[思判表]除数の切り捨てや切り上げの選択方法に着目して、仮商のたて方を考え、説明している。【観察・ノート】</p> <p>[態度]これまでに養った数感覚を振り返り学習に生かそうとしている。【観察・ノート】</p>
7	3位数 \div 2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を2位数 \div 2位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.105	<ul style="list-style-type: none"> ①$153 \div 24$ の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。 	<p>[知技]2位数\div2位数の筆算の仕方を基に、3位数\div2位数の筆算の仕方を考える。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]商のたて方に着目して、3位数\div2位数の筆算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	主な評価規準
(3) 2けたの数でわる筆算(2) 上p.106~108 3時間			
8	3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 上p.106~107	<ul style="list-style-type: none"> ①問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ②345÷21の筆算の仕方を考える。 ③345÷21の筆算の仕方をまとめる。 	<p>[思判表]既習の除法の筆算の仕方を基に、345÷21などの計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
9	2位数÷1位数=2位数の筆算の仕方をを用いて、3位数÷2位数=2位数の筆算をすることができる。 上p.107	<ul style="list-style-type: none"> ①計算練習をする。 ②476÷15で、除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。 	<p>[知技]既習の除法の筆算の仕方をを用いて、3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。</p> <p>【観察・ノート】</p>
10	商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.108	<ul style="list-style-type: none"> ①941÷23、960÷16の筆算の仕方を考える。 ②計算練習をする。 ③732÷216の筆算の仕方を考える。 ④216を200とみて、仮商をたてる。 ⑤計算練習をする。 	<p>[知技]既習の除法の筆算の仕方をを用いて商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算をすることができる。【観察・ノート】</p> <p>[思判表]商の見当のつけ方に着目して、除数の桁数が増えても筆算の仕方が変わらないことを考え、説明している。【観察・ノート】</p>
(4) わり算のせいしつ 上p.109~110 2時間			
11 本時	除法の性質について理解する。 上p.109	<ul style="list-style-type: none"> ①商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。 ②除法の性質をまとめる。 	<p>[知技]被除数、除数の両方に同じ数をかけても、両方を同じ数でわっても、商は変わらないという、除法の性質を理解している。</p> <p>【観察・ノート】</p> <p>[思判表]複数の式から、被除数と除数、商の関係に着目して、除法の性質について考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>
12	末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.110	<ul style="list-style-type: none"> ①24000÷500の筆算の仕方を考え、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。 ②2700÷400の筆算の仕方と、末尾に0のある数の除法での余りの求め方を考える。 ③末尾に0のある数の除法の筆算の仕方についてまとめる。 	<p>[知技]除法の性質を用いて、末尾に0のある数の簡便な筆算の仕方を理解し、計算することができる。</p> <p>【観察・ノート】</p> <p>[思判表]除法の性質に着目して、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を考え、説明している。</p> <p>【観察・ノート】</p>

時	目標	学習活動	主な評価規準
まとめ 上p.111～113, 151 2時間			
13 ・ 14	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.111～113	<ul style="list-style-type: none"> ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<p>【知技】基本的な問題を解決することができる。</p> <p>【観察・ノート】</p> <p>【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】</p> <p>【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】</p>
【発展】 巻末 p.151 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基にわり算の筆算の理解を深める。			

6 本時の指導（11 / 14時間）

(1) 本時の目標

○除法の性質について理解する。

(2) 本時の主な評価規準

評価規準	B	Bに至らない児童への支援
【思考・判断・表現】 複数の式から、被除数と除数、商の関係に着目して、除法の性質について考え、説明している。	商が等しいわり算において、被除数、除数に着目し、同じ数をかけたり同じ数でわったりする見方がどの式にも当てはまることに気づき、説明することができる。	複数の式を縦に並べて提示し、被除数、除数の変化の共通点に気づかせる。また、学び合いの場で友達の考えから理解を図れるようにする。

(3) 研究との関わり【考えを深め広める工夫】

ア 発問の工夫

- ・児童のつぶやきを取り上げて共有し、思考の助けとする。

イ 書く活動の工夫

- ・間接指導時に、自力解決が図りやすいよう、次の話し合いに向かうための自分の考えをまとめやすいよう、板書とノートを連動させる。

ウ 話し合いのさせ方の工夫

- ・商が等しいわり算にはどんな関係があるかを、自分のノートを見せながら、話し合わせる。
- ・ペア学習を効果的に取り入れる。

(4) 展開

第3学年				第4学年	
学習活動	指導上の留意点 (・留意点 ☆評価)	段階 形態		学習活動	指導上の留意点 (・留意点 ☆評価)
1 練習問題に取り組む。	・前時の何十÷1位数の計算の仕方を復習する。	ふりか 返る 5分 10分	つ か む	1 問題を把握する。	<p>指導上の留意点 (・留意点 ☆評価)</p>
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 次のわり算の商をもとめましょう。 $4 \div 1 = (4)$ $8 \div 2 = (4)$ $24 \div 6 = (4)$ $240 \div 60 = (4)$ </div> ○気づいたことを話し合う。 ・商が全て4になっている。 2 課題を把握する。	
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 商が等しいわり算には、どんな決まりがあるか調べよう。 </div> ○「決まり」のことを「せいしつ」ということを確かめる。	
		見 通 す 5分		3 見通しをもつ。 ○わられる数とわる数にどんな決まり(性質)があるかを説明することが自力解決のゴールであることを確かめる。 ・式のカードを縦に見ていくとわられる数とわる数の変化の仕方に規則性があることを一つ取り上げて見通しをもつ。	・自力解決に向かわせやすいように板書(カード)で提示する。 ・説明に使うキーワードを提示する。 「わられる数」「わる数」「商」
2 問題を把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 69まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。一人分は何まいになりますか。 </div> ○図や言葉の式を基に立式させる。 ・ $69 \div 3$ 3 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 計算のしかたを考えよう。 </div>	つ か む 4分 8分	確 か め る	4 自力解決する。	・見通しをもとに考える。 ・式カードに書き込んで考えさせる。
・わられる数とわる数に同じ数をかけても、商は変わらない。 ・わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。					
4 見通しをもつ。	・ $60 \div 3$ ならできる。 ・これまで行ってきた方法で解決できる見通しをもつ。 ・図、計算のそれぞれの書き出しは、一緒に確かめておく。	見 通 す 4分	見 通 す	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 教科書の図 </div>	
○答えの見通し ・一人分は前時の答え20枚よりは多い。 ○方法の見通し ・図、計算					

<p>5 自力解決する。</p> <p>・図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">教科書の図</div>	<p>・見通しをもとに考える。</p> <p>・計算</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">教科書の図</div>	<p>確 か め る</p> <p>6 分</p>	<p>深 め る</p> <p>10 分</p>	<p>5 学び合う。</p> <p>○ペアで説明し合う。</p> <p>○全体で確かめる。</p> <p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・わられる数とわる数に同じ数をかけても、商は変わらない。</p> <p>・わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。</p> </div>	<p>・キーワードが入っているかを互いに確かめながら、説明し合う。</p>
<p>6 学び合う。</p> <p>○全体で答えを確かめる。</p> <p>7 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>位ごとに分けて計算すれば、答えをもとめることができる。</p> </div>	<p>・3人で確かめ合いながら、それぞれの方法を説明し合う。</p>	<p>深 め る</p> <p>10 分</p>	<p>ま と め る</p> <p>17 分</p>	<p>7 練習問題に取り組む。</p> <p>・p 109△1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆〔思考・判断・表現〕 商が等しいわり算において、被除数、除数に着目し、同じ数をかけたり同じ数でわったりする見方がどの式にも当てはまることに気づき、説明することができる。 (観察・ノート)</p> </div>	<p>・第1時の$60 \div 20$が$6 \div 2$と商が同じだったことを既習の掲示で確かめる。</p> <p>・本時の学習内容を生かして解答する。</p> <p>・①を説明させる問題をプリントで提示</p>
<p>8 練習問題に取り組む。</p> <p>p 115△2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆〔思考・判断・表現〕 位ごとに分けて計算すれば、既習の除法計算ができることを、図や式を用いて説明することができる。(観察・ノート)</p> </div>	<p>・本時の学習内容を生かして解答する。</p> <p>・①を説明させる問題をプリントで提示</p>	<p>ま と め る</p> <p>11 分</p>		<p>(・計算ドリル)</p>	
<p>9 学習をふり返る。</p>	<p>・本時のふり返りを書き、学んだことを再確認させる。</p>			<p>8 学習をふり返る。</p>	<p>・本時のふり返りを書き、学んだことを再確認させる。</p>

(5) 板書計画

3年生

10/5 No p115

問題

69まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。一人分は何まいになりますか。

式 $69 \div 3$

① $60 \div 3 = 20$

20まいよりは多くなる。

答え 1人分は23まい

課題

計算のしかたを考えよう。

① 図、計算、言葉

図



計算



まとめ

位ごとに分けて計算すれば、答えをもとめることができる。

△2

① $96 \div 3 = 32$

$$\begin{array}{r} 90 \quad 6 \\ 90 \div 3 = 30 \\ 6 \div 3 = 2 \\ \hline 32 \end{array}$$

96を90と6に分けます。
十の位は $90 \div 3 = 30$
一の位は $6 \div 3 = 2$
30と2を合わせて、
答えは32になります。

② $88 \div 4 = 22$

③ $64 \div 2 = 32$

④ $77 \div 7 = 11$

⑤ 分かったこと
思ったこと

4年生

10/5 No p109

問題

次のわり算の商をもとめましょう。

$4 \div 1 = (4)$

$8 \div 2 = (4)$

$24 \div 6 = (4)$

$240 \div 60 = (4)$

○商はすべて4

課題

商が等しいわり算には、どんな決まりがあるか調べよう。

決まり→せいしつ

① わられる数 わる数 同じ数 商

$4 \div 1 = 4$

2倍 ↓ 2倍

$8 \div 2 = 4$

$24 \div 6 = 4$

$240 \div 60 = 4$

同じ数をかける

$240 \div 60 = 4$

$24 \div 6 = 4$

$8 \div 2 = 4$

$4 \div 1 = 4$

同じ数でわる

まとめ

- ・ わられる数とわる数に同じ数をかけても、商は変わらない。
- ・ わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。

△1

① $210 \div 30 = 7$

$$\begin{array}{r} \div 10 \downarrow \quad \downarrow \div 10 \\ 21 \div 3 = 7 \end{array}$$

② $90 \div 18 = 5$

$$\begin{array}{r} \div 9 \downarrow \quad \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array}$$

③ $200 \div 25 = 8$

$$\begin{array}{r} \times 4 \downarrow \quad \downarrow \times 4 \\ 800 \div 100 = 8 \end{array}$$

⑤

分かったこと
思ったこと

国語 3・4年

釜石市立栗林小学校 令和2年11月26日(木)

第3学年
「三年とうげ」(光村図書)

第4学年
「プラタナスの木」(光村図書)

本実践のポイント

※本事例は令和2年度の実践です。

※指導案は次ページに掲載



○共通部分の捉え

3・4年生同単元の物語文を扱った実践です。本時はどちらも、「場面の移り変わりにもなって登場人物の気持ちや考えがどのように変化しているか」を捉える場面であり、直接指導と間接指導が両学年とも同じ流れで展開できる授業構成となっています。

また、どちらの学年も登場人物の「行動」「様子」「会話文」といった、同じ手掛かりで読みを進めたり、導入では、教師側から「今日の内容で似ているところは？」と、両学年の共通点に気付かせる工夫をしたりすることで、子どもたちは学年が違って共通した要素で物語を読むことができることを実感しながら、授業に臨むことができていました。

さらに、まとめについても、「(登場人物)は、最初は△△だったが、最後は◇◇になった」のように共通の文型を示すことにより、本時の目標に沿ったゴールを見通して学習を進めることにつながりました。



第3・4学年の指導事項は共通したもののなので、両学年ともに同様の展開とすることはわかりやすいですが、同じようなまとめだとしてもそのアプローチ(まとめまでの過程)の違いに着目させることで、下学年の上学年に対する学びの違いや広がり、尊敬の念につながると考えられます。複式学級のメリットを活かすという視点で学習活動を展開したいものです。

○効果的な直接・間接指導

間接指導の際、学習リーダーが中心となって、教師から与えられた観点に沿って自分たちで話し合いを進めることができるように工夫されています。これにより、リーダーだけでなく、子どもたち全体の高まりも感じられました。また、直接指導の際にも必要に応じてペア学習を取り入れるなど、児童が主体となった授業展開となっていました。

今回は気持ちの変化を捉える時間でしたが、自分たちで話し合いを進める中で、気持ちの変化につながるきっかけとなる出来事や他の登場人物との関わり、情景描写等から民話の面白さや物語の魅力に迫ることができると考えられます。

学習の最後に、観点を示した両学年共通の振り返りを行うことにより、わかる喜びを実感しながら授業に臨んだことがうかがえました。



複式教育の効果的な指導と考えると、本時の重点として直接指導しなければならないことは何か、それを学習過程のどこに位置付けるか、いかに子どもの学習状況を適切に見取って評価するかなどの面から、直接指導の内容を厳選し、間接指導に切り替える内容を増やしていくことが求められます。

また、座席配置などの工夫も効果的です。本実践は、教室の正面と後ろの黒板(移動黒板)を使用しての授業でした。この形態では、子どもが背中合わせで集中しやすいこと、授業者の視界に両学年の子どもたちが入ること等のメリットを活かして授業を進めることができます。

第3・4学年国語科学習指導案

〈第3学年〉

1 単元名 三年とうげ（光村図書）

2 単元について

(1) 教材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

第3・4学年

【知識・技能】

(1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

【思考力・判断力・表現力等】

C 読むこと

(1) イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

この教材は、民話のおもしろさに触れる中で、場面の移り変わりにともなって変化する登場人物の気持ちを、具体的に想像する力を育むことをねらいとしている。

(2) 児童について

(略)

(3) 指導について

本単元では、民話の組み立てを捉え、民話のおもしろさについて「民話紹介カード」にまとめ、友達に伝える活動を設定した。単元の導入場面において、教師が作った「民話紹介カード」を提示し、単元のゴールを明確にする。児童が分からない語句については、辞書で意味調べをさせておく。

本時の指導に当たっては、学習リーダーを中心にして、教師が与えた観点に沿って自分達で話し合いを進めさせたい。また、児童の学びを見取るために、振り返りの場面において、間接指導で行われた学び合いの結果を学習シートにまとめて発表させ、学習の最後に観点到示した振り返りを行うことにより、分かる喜びを実感させていきたい。

3 単元の指導目標

○登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

○民話の物語の組み立てを捉え、「民話紹介カード」に考えをまとめることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動を表す語句について理解を深めている。(1)オ	・登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えている。C(1)イ ・登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて想像している。C(1)エ	・物語の組み立てや登場人物の変化に着目しながら、民話のおもしろさについて進んで考えたり、紹介したりしようとしている。

〈第4学年〉

1 単元名 プラタナスの木 (光村図書)

2 単元について

(1) 教材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

<p>第3・4学年</p> <p>【知識・技能】</p> <p>(1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) オ 登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。</p> <p>イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</p>
--

この教材は、登場人物の気持ちや考えの変化を捉える力を育むことをねらいとしている。

(2) 児童について

(略)

(3) 指導について

本単元では、「物語紹介カード」に自分が感じた物語の魅力について友達に紹介する活動を設定した。単元の導入場面において、教師が作った「物語紹介カード」を提示し、単元のゴールを明確にする。児童が分からない語句については、辞書で意味調べをさせておく。「登場人物の気持ちの変化」を読み取るために、根拠となる文にサイドラインを引かせる。その際、適宜ペア学習を行わせ、児童が自分や友達の考えについて深く考え、自信を持てるようにする。

本時の指導に当たっては、学習リーダーを中心にして、教師が与えた観点に沿って自分達で話し合いを進めさせたい。また、児童の学びを見取るために、振り返りの場面において、間接指導で行われた学び合いの結果を学習シートにまとめて発表させ、学習の最後に観点到示した振り返りを行うことにより、分かる喜びを実感させていきたい。

3 単元の指導目標

- 登場人物の気持ちや性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(1) オ</p>	<p>・登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えている。C (1) イ</p> <p>・登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて想像している。C(1)エ</p>	<p>・積極的に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、「物語紹介カード」を書こうとしている。</p>

5 単元の指導計画（7時間）〈第3学年〉

	時数	主な学習内容	評価規準
第1次 学習の見直し	1	<ul style="list-style-type: none"> ・民話について知り、物語の組み立てはどのようなものかを知り、これからの学習の見直しをもつ。 ・本文を全文通読し、物語のおもしろさについて感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・態民話について知り、おもしろさについて考え、これからの学習のおおよその見直しをもつことができる。
第2次 物語の組み立てや、登場人物の気持ちの変化を捉える	2	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の組み立てを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知登場人物の様子や行動、気持ちを表す言葉に着目している。
	3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を通して、誰が、何によって、どのように変わったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に考えている。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「おじいさん」の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて想像し、「三年とうげ」のおもしろさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて想像している。
第3次 民話を紹介する	5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ民話のおもしろさを「民話紹介カード」にまとめる。 ・お互いの「民話紹介カード」を読み、感想を伝え合う。 ・単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて想像している。 ・態物語の組み立てや登場人物の気持ちの変化に着目しながら、民話のおもしろさについて進んで考えたり、紹介したりしようとしている。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

登場人物の気持ちの変化を考えるために行動や様子を表す言葉に着目し、おじいさんの気持ちについて考えることができる。

(2) 評価規準

観点	概ね満足できる	努力を要する児童への手だて
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・行動や様子を表す言葉に着目し、おじいさんの気持ちについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動や様子を表す言葉を具体的に伝え、どんな気持ちが想像できるか一緒に考える。

5 単元の指導計画（7時間）〈第4学年〉

	時数	主な学習内容	評価規準
第1次 学習の見直し	1	・単元のめあてを確認し、学習の見直しをもつ。	・ 態 単元のめあてや学習計画を理解し、「プラタナスの木」を進んで読もうとしたり、物語を紹介する文章を書く活動に意欲をもって取り組もうとしたりしている。
第2次 登場人物の気持ちを読み取る	2	・場面を確かめ、それぞれの場面の様子や出来事をまとめる。	・ 思 会話文や行動、情景などの叙述に着目して、登場人物の変化などを読み取っている。
	3 本時	・物語の最初と最後でマーちゃんがどのように変化したのかを考える。	・ 知 叙述に着目して読むことで、様子や行動、気持ちを表す語句の量を増やしている。
	4	・マーちゃんが変わるきっかけとなった出来事についての自分の考えをまとめる。 ・マーちゃんが最後の場面で感じていたことや物語のその後について想像し、自分の考えをまとめる。	・ 思 場面と場面のつながりを考えたり、自分と照らし合わせて具体的に想像したりしながら読み、登場人物の変化やそのきっかけを考えている。
第3次 紹介する文章を書く	5 6 7	・「プラタナスの木」の魅力についてまとめ、紹介する文章を書く。 ・紹介する文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・単元の学習を振り返る。	・ 思 紹介する文章を友達と読み合い、良さを見つけたり、自分の考えを広げたりしている。 ・ 態 友達と感想を伝え合う活動に、進んで取り組んでいる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

登場人物の変化について読み取り、物語の最初と最後で登場人物がどのように変化したのかを考えることができる。

(2) 評価規準

観点	概ね満足できる	努力を要する児童への手だて
読むこと	・物語の最初と最後で登場人物がどのように変化したのか叙述から理由を考えている。	・考える視点を具体的に与え、一緒に考える。

(3) 展開 直接 間接

段階	第3学年		形態	第4学年		段階
	指導上の留意点(・) 評価(◆)	学習活動と学習内容		学習活動と学習内容	指導上の留意点(・) 評価(◆)	
つかむ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・民話がどのような組み立てになっていたかについて、表を基に確認する。 	1 前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・民話の組み立てを確認する。 2 学習課題を設定する。		1 前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・5つの場面の様子や出来事について確認し合う。 2 学習課題を設定する。	(学習リーダーがすすめる) <ul style="list-style-type: none"> ・最初と最後で考え方が変わった人物を確認する。 	つかむ 10分
	おじいさんの気持ちがどのように変わったか考えよう。			マーちゃんがどのように変わったのか考えよう。		
ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> ・「様子を表す言葉」、「行動」に着目させる。 	3 課題解決の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの気持ちを読み取るには、何に着目するか確認する。(学習リーダーが進める。) ①音読する ②おじいさんの気持ちがわかるところに線を引く ③友達と交流する。 ④プリントに書く		3 課題解決の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・読む視点を与える。 ① 四、五の場面を音読する。 ②マーちゃんの考えが分かるところに線を引く。 ③プリントに書く	<ul style="list-style-type: none"> ・プラタナスの木への思い、自然に対する気持ちの変化を考えさせる。 	ふかめる
	<ul style="list-style-type: none"> ・「リーダー学習の手引き」を活用させる。 	④プリントに書く		③プリントに書く		
25分	<ul style="list-style-type: none"> ・どの叙述から想像したのかを随時確認する。 ◆叙述を基に登場人物の気持ちを考えている。(ワークシート) 	4 線を引いた文を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの気持ちがわかるかどうかを確かめる。 		4 考えを交流する <ul style="list-style-type: none"> ・線を引いた文を伝え合い、マーちゃんの気持ちについて交流する。 (学習リーダーが進める) ①友達とプリントを見せ合う。 ②線を引いた理由を話し合う。 ③黒板にそれぞれの考えを書き、互いの考えを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを伝え合う時の視点を与える。 ・友達の考えを聞いていいと思ったところは、自分のプリントに書き足す。 	25分
	<ul style="list-style-type: none"> ◆場面の移り変わり結び付けて具体的に登場人物の気持ちを想像している。(ワークシート、発言) 	5 場面ごとのおじいさんの様子について考え、まとめる (学習リーダーが進める。) ①それぞれの場面のおじいさんの気持ちについてまとめる。 ②交流する。		5 考えを深める <ul style="list-style-type: none"> ・マーちゃんの気持ちがどのように変わったか学び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が黒板に書いたことを基に、登場人物の考えがどのように変化したか考える。 	

段階	第3学年		形態	第4学年		段階
	指導上の留意点(・) 評価(◆)	学習活動と学習内容		学習活動と学習内容	指導上の留意点(・) 評価(◆)	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを基に、自分の言葉でまとめさせる。 ◆行動や様子を表す言葉に着目して、登場人物の気持ちをとらえている。(ワークシート、発言) 今日の学習で分かったことや友達の考えの良かったところなどについて振り返らせる。 	<p>6、学習のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>おじいさんは、最初は〇〇だったが、△△が〜〜したおかげで最後は、〇〇になった。</p> </div> <p>7 学習の振り返りを行う</p> <p>8 次時の確認をする。</p>		<p>6 学習のまとめを行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>マーちゃんは、最初はプラタナスの木を〇〇と思っていたが、最後は〇〇と思うようになった。 理由は、〜〜という文から〜〜ということが伝わるからです。</p> </div> <p>7 学習の振り返りをする</p> <p>8 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流したことを基に自分の登場人物の変化について言葉でまとめさせる。 ◆会話文や行動、情景などの叙述に着目して、登場人物の変化を読み取っている。(ワークシート、発言) 今日の学習で分かったことや友達の考えの良かったところなどについて振り返らせる。 	まとめ 10分

7 板書計画 第3学年

場面によって気持ちが変わっている。
出来事の起こりからむすびで気持ちが大きく変わった！

うれしい

むすび

おじいさんは、すっかりうれしくなりました。
あんまりうれしくなったので、にっこり元気になり、

思いつく

出来事のかいけつ

おじいさんは、ふとんから顔を出しました。
ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。

とても悲しい

出来事の起こり

おじいさんは真っ青になり、
がたがたふるえました。
おばあさんにしがみつきました。
おじいさんは、ご飯も食べずに、ふとんにもぐりこみ、

おだやか

始まり

美しいながめにうっとりしました。

行動様子を表す言葉

おじいさんの気持ちがくわしくそうぞうでできる場所を探そう。

P.70
おじいさんは真っ青になりました。

三年とうげ

おじいさんの気持ちがどのように変わったのか考えよう。

第4学年

マーちゃんは、最初はプラタナスの木を〇〇と思っていたが、最後は、〇〇と思うようになった。
理由は、〜〜という文から〜〜なことが伝わるからです。

最後

最初

プラタナス公園に走った。
プラタナスの切りかぶの上に立ってみた。
「根に支えられているみたいだよ。」
みんなが木のみきや枝になったみたいだ。
ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。

木が生えているだけ
サッカーができる

プラタナスの木への思い

自然に対する気持ち

プラタナスの木

マーちゃんの気持ちがどのようにかわったのか考えよう。

道徳
3・4年

第3学年
主題名 言われたときの心
【B(6)親切, 思いやり】
教材名 ぽかぽか言葉
(学研「新・みんなの道徳3」)

第4学年
主題名 気持ちの通い合い
【B(6)親切, 思いやり】
教材名 温かい言葉
(学研「新・みんなの道徳4」)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○指導過程の工夫

3年生2名、4年生1名の少人数の複式学級です。本実践では、両学年の内容項目を揃えることにより、導入と終末に異学年の3人が関わり合いながら学ぶことができるように工夫しています。

【共通導入】 価値についての意識を高め、話し合いの方向をつかむ

【学年別指導】 それぞれの学年の教材(教科書)で価値について深める

【共通終末】 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める



学年別指導の際には、資料の範読にデジタル教科書が活用されています。1人1台端末は、間接指導での有効なツールとして活用が期待されます。



○自分の考えと他者の考えをつなげる交流の工夫

少人数の複式学級では、他者との対話によって考えを深めることが難しいという声が聞かれます。そこで、3年生では動作化や「感情カード」の活用により、児童2名から多様な考えを引き出す工夫をしています。4年生では、架空の人物である「大川君」を登場させ、「大川君からの手紙」を提示することで、1名での学びでも多様な考え方、感じ方に触れることができるように工夫されています。



○振り返りの工夫

本実践では、次の2つの視点で振り返りの充実を図っています。

①学習と自分の成長をつなぐ(自己の変容への気づき)

道徳的価値についての理解を導入時と比較したり、自分とは異なる考えへの理解を深めたりしながら自己の変容の気づきを促す。

②自分の学びと活用場面をつなぐ(活用)

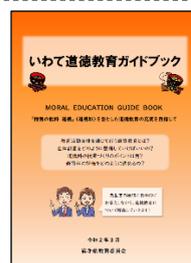
道徳的価値についての理解を基に、今後自分は何を大切に生きていこうとするか等の振り返りの視点をもたせる。

終末で道徳的価値への考えを聞き比べ、共通しているところや異なるところに着目させながら、自己の生き方について考えを深めることができるように工夫されています。



「いわて道徳教育ハンドブック」のP17で、複式指導における指導の工夫について取り上げていますので、ご参照ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006363/1028251.html>



第3・4年道徳科学習指導案（抜粋）

日時 令和3年11月30日（火）

場所 3・4年教室

児童 3年 男子2名 女子0名 計2名

4年 男子1名 女子0名 計1名

授業者 伊藤 樹梨藍

〈3年〉

1 主題名 言われたときの心【B(6)親切, 思いやり】

教材名 ぽかぽか言葉

(学研「新・みんなの道徳3」)

〈4年〉

1 主題名 気持ちの通い合い【B(6)親切, 思いやり】

教材名 温かい言葉

(学研「新・みんなの道徳4」)

2 主題設定の理由

(4) 指導にあたって

小規模学級の良さを生かしながら、次のような手だてを講じ、学びをつないで考える子どもの育成をめざす。

〈学びをつなげて表現する子どもの姿〉

3年

役割演技を通して出された感想をもとに、ぽかぽか言葉ととげとげ言葉の違いについて話し合い、言葉によって、言われた人の心がどのように変わっているのかを考えるとともに、言葉を使うときに大切にすべきものは何かを考えることを通して判断する姿。

4年

「初めのお兄さんの行為」は親切といえるのか考えた根拠をもとに、「断れても怒らずに謝り励ますお兄さんの姿やそれに応じる男の子の姿」から、本当の親切とは何か考えを広げ、相手の気持ちを考え尊重して行動しよう判断する姿。

【手だて1：交流の指導】

① 自分の考えと他者の考えをつなげる交流

・「大川君の言葉」を提示し、異なる考えに触れながら多面的・多角的に考えることができるようにする。

(4年生)

・交流に入る前に考える視点をもたせることで、自分の考えに根拠をもたせ、異なる考えに触れながら多面的・多角的に考えることができるようにする。(3年生)

・終末で道徳的価値への理解を聞き比べ、共通しているところや異なるところに着目し、自分の考えが広げられるようにする。(3・4年生)

【手だて2：振り返りの工夫】

① 学習と自分の成長をつなぐ（自己の変容への気づき）

・道徳的価値についての理解を導入時と比較したり、自分とは異なる考えへの理解を深めたりしながら自己の変容の

気づきができるようにする。(3・4年生)

② 自分の学びと活用場面をつなぐ（活用）

・道徳的価値についての理解を基に、今後自分は何を大切にして生きていこうとするか等の振り返りの視点をもたせたり、話型を使ったりして考えられるようにする。(3・4年生)

3 本時の指導計画

3年

(1) ねらい

動作化や役割を演じるといった体験的に理解する活動を通して、言葉には人をうれしい気持ちにさせる言葉と反対に傷つけてしまう言葉があることを理解し、相手の気持ちを考えて適切に使おうとする態度を養う。(道徳的態度)

(2) 評価の視点

動作化や演じることを通して、言葉には、人をうれしい気持ちにする言葉と人を傷つけてしまう言葉があることを多面的・多角的に考えている。

(3) 展開

4年

(1) ねらい

相手の気持ちを考えることの大切さについて自覚を深め、進んで親切にしようとする心情を育てる。(道徳的心情)

(2) 評価の視点

親切な行為には、自分の思いも大切だが、相手の気持ちに寄り添うことが大切であるということについて多面的・多角的に捉えて考えている。

段階	3年		形態	4年	
	指導上の留意点 (◇評価)	学習活動 ○中心発問 ●基本発問 ・予想される反応		学習活動 ○中心発問 ●基本発問 ・予想される反応	指導上の留意点 (◇評価)
導入 5分	・これまでの経験を振り返りねらいとする価値の方向付けをする。	1. 価値についての意識を高め、話し合いの方向をつかむ。 ●思いやりとはどんなことだろう。 ・やさしくする。傷つけないようにする。 ・親切にする。・手伝う。・助ける。		1. 価値についての意識を高め、話し合いの方向をつかむ。 ●思いやりとはどんなことだろう。 ・やさしくする。傷つけないようにする。 ・親切にする。・手伝う。・助ける。	・これまでの経験を振り返りねらいとする価値の方向付けをする。
展開 30分	・教材文を黙読するよう指示を出しておく。	2. 課題を確認する。 思いやりは、どうすれば伝わるのだろう。		2. 課題を確認する。 思いやりは、どうすれば伝わるのだろう。 3. 教材文を読み、話し合う。 (1) 登場人物の確認後、T2と役割演技を行い、考えたことを交流する。 ・「やめろ」は冷たい言葉。 ・「ごめんね」「ありがとう」は温かい言葉。	・読む視点を確認する。 ・教材文を読んだ後の指示を出しておく。 ・デジタル教科書を使う。 ・矢印カード等を貼り気持ちを視覚化する。

<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読んだ後に、次の指示を出しておく。(役割演技の進め方等) ペアで動作化させる。 【手だて1：交流の工夫】 動作化した後、どんな気持ちになったか、どんな言動になりそうか選択肢や視点をもたせ話し合いに参加しやすくする。(ワークシート、感情カード) 	<p>3. 教材文を読んで話し合う。</p> <p>(1) 登場人物の心情について役割演技をしながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●とげとげ言葉とぼかぼか言葉を言われたときの気持ちを選ぼう。 ぼかぼか言葉は、言われるとうれしい。 ぼかぼか言葉は、気持ち明るくなる。 とげとげ言葉は、言われると悲しい。 とげとげ言葉は、つらい気持ちになる。 		<p>(2) 登場人物の心情について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お兄さんは、どんな気持ちで男の子に謝ったのだろうか。 がんばりたい気持ちを分かかってあげられなくてごめんね。 ●男の子はどんな気持ちで「ありがとう」と言ったのだろうか。 気持ちを分かってくれてありがとう。 <p>(3) 教材について話し合い、価値について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人の様子から、お兄さんの思いやりは、どうして伝わったのだろうか。 自分の気持ちよりも相手の気持ちを考える。 相手の立場に立って気持ちを考える。 相手が本当にしたいことを聞いてあげる。 相手が本当に望むことを考える 	<p>る。</p> <p>【手だて1：交流の工夫】</p> <p>「大川君からの手紙」を提示し、異なる考えに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2人は思いが通じ合ったことを確認する。
<p>◇ぼかぼか言葉ととげとげ言葉の違いについて、交流を通して多面的・多角的に考えられたか。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の感じ方について整理する。 個人で考えている間に4年生の考えを確認する。 	<p>(2) 教材について話し合い、価値について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○とげとげ言葉とぼかぼか言葉を言われたときの気持ちのちがいは何だろう。 ぼかぼか言葉は、相手の気持ちを考えている とげとげ言葉は、相手の気持ちを考えていない。 思いやりがあるかないか。 言葉によって、言われた人の心が変わっているな。 <p>●思いやり(温かい心)は、どうすれば伝わるんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えて話せば伝わる。 		<ul style="list-style-type: none"> ●思いやりは、どうすれば伝わるんだろう。 相手の気持ちを考えて話せば伝わる。 何でも助けることだけが親切ではない。 	<p>◇親切な行為は、相手の気持ちに寄り添うことが大切であることを多面的・多角的に考えられたか。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人で考えている間に3年生に指示を出す。 「しょう君からの手紙」を提示し、異なる考えに触れる。 振りかえりの指示を出しておく。

<p>終末 10 分</p>	<p>【手だて2：振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値への理解を導入の時と比較したり、自分とは異なる考えへの理解を深めたりしながら自己の変容の気づきができるようにする。 ・ 道徳的価値を生かし、今後自分は何を大切にしていこうとするか等の振り返りの視点をもたせたり話型を使ったりして考えられるようにする。 ・ 3・4年生の考えた道徳的価値への理解を聞き比べ、考えを広げることができるようにする。 	<p>6. 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの自分は、話すときに何か意識していたかな。 ・ これまでは、話すときには、相手の気持ちを考えることまで考えていなかったかもしれない。 ・ 少しは意識して相手のことも考えていたけど、冷たい言葉はどうだったかな。 ● 体験や話し合いをしてみても、多く使いたい言葉はどちらですか。それは、なぜですか。 ・ とげとげ言葉は相手の気持ちを悲しくさせるから使わないようにしたい。 ・ 相手の気持ちになって言葉を使いたい。 		<p>4. 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの自分は、相手の気持ちを考えて親切にできていただろうか。 ・ これまでは、相手の気持ちまで考えていなかったかもしれない。 ・ 考えていたこともあったけれど、いつもじゃなかった。 ● これから、どんなことを大切にしたいですか。 ・ 相手の気持ちを確かめてから手伝いたい。 ・ 手伝った方がいいかどうか聞いてみたい。 ・ 相手の本当の気持ちを考えていきたい。 	<p>【手だて2：振り返り】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道徳的価値への理解を導入の時と比較したり、自分とは異なる考えへの理解を深めたりしながら自己の変容の気づきができるようにする。 ② 道徳的価値を生かし、今後自分は何を大切にしていこうとするか等の振り返りの視点をもたせたり話型を使ったりして考えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3・4年生の考えた道徳的価値への理解を聞き比べ、考えを広げることができるようにする。
------------------------	---	--	--	--	--

(4) 板書計画

① 3年

ぽかぽか言葉

思いやり (温かい心) は、どうすれば伝わるのだろう。

ぽかぽか言葉で
😊

とげとげ言葉で
😡

思いやり (温かい心) は、相手がどう思うか考えたり、相手の気持ちを考えたり、相手が嫌なきもちにならないかを考えたりしてから話せば伝わる。

【ちがい】

相手のことを考えている。 相手の気持ちまで考えていない。

思いやりがある。 思いやりがない。

温かい心になる。 冷たい心になる。

② 4年

温かい言葉

思いやりは、どうすれば伝わるのだろう。

● 思いやり

- ・やさしくする。
- ・親切にする。
- ・手伝う・助ける。

- ・自分の気持ちよりも相手の気持ちを考える。
- ・相手の立場に立って気持ちを考える。
- ・相手が本当にしたいことを聞いてあげる。
- ・相手が本当に望むことを考える。
- ・何でも助けることだけが親切ではない。

おせっかい 思いやり×

① 手伝ってあげるよ
? → 冷
← 温
② やめろ

① ごめんね
温 → 温
← 温
② ありがとう

がんばりたい気持ちを分か
ってあげられなくてごめんね。

思いやりが
伝わった

気持ちを分かってくれ
てありがとう。

【ふりかえり】

● 3年

相手の気持ちを
考える。

● 4年。

相手の気持ちを考える。
相手の本当にしたいことを
考える。

《ワークシート》

<p style="text-align: center;">ぼかぼか言葉</p> <p style="text-align: center;">名前 ()</p> <p>① ぼかぼか言葉と とげとげ言葉を言われたときのちがいは何だろうか。</p> <p><small>② ぼかぼか言葉は、相手の気持ちを考えずに、自分の気持ちを言ってしまうこと。とげとげ言葉は、相手の気持ちを考えずに、自分の気持ちを言ってしまうこと。</small></p> <p>② ふりかえり</p> <p>△ これまでの自分は、話すときに、相手の気持ちを考えていましたか。</p> <p>□ 今日の学習で、多く使いたい言葉はどちらですか。それは、なぜですか。</p>	<p style="text-align: center;">溢かいい言葉</p> <p style="text-align: center;">名前 ()</p> <p>① お兄さんの思いやりはどうして伝わったのだろうか。</p> <p><small>② お兄さんが、勇気づけてくれたこと。</small></p> <p>自分の考え</p> <p>友だちの考えを聞いて・・・</p> <p>② ふりかえり</p> <p>△ これまでの自分は、相手の気持ちを考えて親切にできていただろうか。</p> <p>□ これから、親切にするときに、どんなことを大切にしたいですか。</p>
---	--

《大川君からの手紙、しょう君からの手紙》

■ くんへ①

「ごめんね」ってことは、お兄さんは何か悪いと思ったんじゃない？

○○してごめん

○○に気づかなくてごめんね

って思ったから

じゃない？ ■ くんはどう思う。

自分の考えが出そうになったら話してみてね

大川より

■ くんへ②

男の子が「やめろ」って言ったから、お兄さんは悪いことをしたと気づいた。

「男の子の○○気持ちに気づかなくてごめんね」と思ったから

じゃない？ ■ くんはどう思う？

自分の考えが出そうになったら話してみてね

しょうより

■ くんへ①

「ありがとう」ってことは、男の子はうれしいと思ったんじゃない？

○○してくれてありがとう と思ったから

○○に気づいてくれてありがとう と思ったから

ってことじゃない？

■ くんはどう思う。

自分の考えが出そうになったら話してみてね

大川より

■ くんへ②

お兄さんが「がんばって」って言ってはげましてくれたから、うれしくなったんじゃない？

■ くんはどう思う？

自分の考えが出そうになったら話してみてね

しょうより

国語
5・6年

第5学年
単元名 テクノロジーとの関わりについて考えをまとめよう
教材名 「弱いロボット」だからできること
資料「テクノロジーが見せる未来」
(東京書籍 「新しい国語五」)

第6学年
単元名 自分の生き方について考えよう
教材名 プロフェッショナルたち
(東京書籍 「新しい国語六」)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○資質・能力の育成において効果的な言語活動を位置付ける

本実践では、単元で身に付けさせたい資質・能力の育成に向けて、単元分析シートを用いて単元を構想しています。

- ・この単元でどんな力を身に付けさせるのかを明確にし、言語活動をどのような課題解決の過程として位置付けるのかを考え、2学年のつながりを大切にするための分析シートとなっています。
- ・一人ひとりが、要旨をまとめる活動をとおして、自分の考えを整理し、それを基に発表し合うことで、少人数集団であっても自分の考えを再構築したり、考えの幅を広げたりする活動を大切にしています。

○児童相互で学び合う場を設定する

- ・間接指導時の学習活動について、自分たちで進められるように学習の流れを黒板に示しています。これにより学習リーダーを中心に協働的に学ぶことができます。また、話し合いをする場合は、「考えを出し合うのか」「考えを1つにまとめるのか」「考えを分類するのか」など、話し合う目的やゴールを明確にしています。
- ・授業者と児童の一問一答にならないように、友達の考えを聞いてどう考えたかを問い返すことで、児童の考えの広がりを促しています。

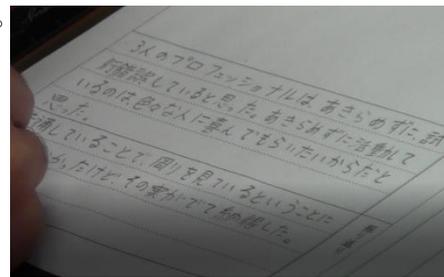
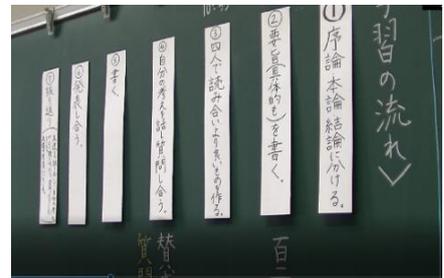
○2学年で学びを共有する振り返りの場面を設定する

本実践では、次の2つの視点で振り返りを設定しています。

- ・児童が、学習したことの成果と課題及び学習の有用性を自分の言葉で書きまとめ、自らの学びの調整に役立てています。また、共通終末で2つの学年で振り返りを伝え合うことで、共通導入からの学習の成果を実感し、複式学級に一体感が生まれ、学習意欲が高まるなどの効果が期待できます。
- ・授業者は、児童の振り返りを授業の改善に役立てています。児童が書いた振り返りから、単元で育成する資質・能力に対して本時の学習が適切であったかどうかを授業者自身が授業振り返り、次時の指導に生かしています。

単元分析シート(5・6年)

学年	5年生	6年生
単元名	テクノロジーとの関わりについて考えをまとめよう	自分の生き方について考えよう
教材名	「弱いロボット」だからできること	プロフェッショナルたち
単元の中で身に付ける資質・能力	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文中での語句の振りかぶりや語順、文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の転換とその特徴について理解することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉と感情、意味などの関係を捉える基に得る考え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつよさを認識するとともに、困難を人柄にして思いや考えを伝え合おうとする。 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考に關わる語句の趣を推し、語や文節の中核としてともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語感を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に對する感賞を認識して、語や語句を味わうことである。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉と感情、意味などの関係を捉える基に得る考え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
目指す具体的姿	<p>【知識・技能】の「構図と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「弱いロボット」だからできること「テクノロジーが見せる未来」の論理的な力と要旨を把握し、まとめている。 <p>【思考・判断・表現】の「考えの形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの資料の読み比べを通して自分自身の考えをまとめている。 ・友達と考えを交流し、テクノロジーの進歩に関する自分の考えをまとめている。 	<p>【知識・技能】の「構図と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理し、発表し合うことで、自分の考えをまとめている。 <p>【思考・判断・表現】の「共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えを交流し、自分の生き方について考えをまとめている。
言語活動の場	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジーに関する意見を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業文集に掲載される得意についての作文を書く。
備考	<p>「西宮区報」に、子ども意見文を書く活動、学習内容についての最初の考えの変化と変化の、考えを振り返るには、学習内容の交流も大切であること、5年生は、多面的な視点ができるように、6年生は、資料文とパネルディスカッションをもとに自分の生き方について考えること。</p>	



第5学年国語科学習指導案

日 時 令和3年10月1日(金) 3校時
 児 童 男子4名 計4名
 指導者 山口 有希子

1 単元名 テクノロジーとの関わりについて考えをまとめよう

2 教材名 ・「弱いロボット」だからできること
 ・資料「テクノロジーが見せる未来」 (東京書籍 5年)

3 単元について

(1) 目標

[知識及び技能]

・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 (1)カ

[思考力、判断力、表現力等]

・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 C(1)ア構造と内容の把握

・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。 C(1)オ考えの形成
 「学びに向かう力、人間性等」

・言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 ((1)カ)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)	①進んで自分の考えをまとめ、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを文章にまとめたり友達に伝えたりしようとしている。

(3) 児童について

(略)

(4) 教材について

主教材である『「弱いロボット」だからできること』は、テクノロジーが加速度的な進歩を遂げる中、その背景にある「便利で高い性能を持つものほどよいものだ」という一般的な考え方に警鐘を鳴らすものである。これに対し、資料「テクノロジーが見せる未来」は、人間の力を超えたテクノロジーの姿や、それが見せる豊かな未来を主張している。それぞれの主張に異なる視点がある2つの文章であり、多面的に読む力を身に付けるのに適した教材である。

(5) 指導について

本単元では、テクノロジーの進化について考えの違う『「弱いロボット」だからできること』と資料「テクノロジーが見せる未来」を読み比べ、自分の考えを書きまとめる言語活動を位置付けた。同じテーマで筆者の考え方が異なる文章を読み比べることは、多面的な読み方について学び、さらに読んで考えたことを書きまとめるという資質・能力を育成することができると考えた。

指導について次の2点に留意する。1つ目は、要旨を本論の内容と関連付けて捉えることである。要旨に説得力をもたせるための事例を既習内容を活用してつかめるようにしたい。2つ目は、友達との交流を自らの学びに生かすことである。本単元では、読み取ったことを基に自分の考えを交流する。自分の考えを整理したり広げたりするため交流の際には、お互いの意見の相違点に着目して聞き可視化できるようにする。そうすることで、考えが変容したり、友達の考えを受け入れ、自分の考えを広げたりできるようにしたい。

第6学年国語科学習指導案

日 時 令和3年10月1日(金) 3校時
 児 童 男子3名 女子2名 計5名
 指導者 山口 有希子

- 1 単元名 自分の生き方について考えよう
- 2 教材名 プロフェッショナルたち (東京書籍 6年)

3 単元について

(1) 目標

[知識及び技能]

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

(1) オ

[思考力、判断力、表現力等]

- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 C(1)ア 構造と内容の把握
 - ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 C(1)カ 共有
- 「学びに向かう力、人間性等」
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 ((1) オ)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ)	①進んで自分の考えを広げ、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを文章にまとめたり友達に伝えたりしようとしている。

(3) 児童について

(略)

(4) 教材について

本教材は、3人のプロフェッショナルが登場し、それぞれの人物の体験や思い、考えを語り手が述べている部分と登場人物自身が述べる部分とで構成されている。中学校へ進学する児童にとって、自分の将来と関わらせて考えられるテーマであり、要旨を押さえ、自分の生き方について、まとめるのに適した教材である。

(5) 指導について

本単元では、3人のプロフェッショナルの仕事に対する思いを知り、さらに、地域の方に直接話を聞き、自分の将来の夢についての考えを広げ文章にまとめるといった言語活動を位置づけた。教材文を読んだり、地域の方に話を聞いたりする活動を通して、児童自身が考えるプロフェッショナルとはどんな人かを友達と交流し合うことで、資質・能力を育成できると考えた。

指導については、次の2点に留意する。1つ目は、「プロフェッショナルたち」を読み、3人に共通する思いを捉えさせることである。共通する思いを捉えることで、自分の生き方と照らし合わせることができるからである。2つ目は、友達との交流を通して自分にとってのプロフェッショナルとは何かを考えさせることである。自分で考えた後に、友達と交流することで考えが整理されたり、共感してもらうことで自信につながったりすると考える。そのため、自分で考える時間を十分に確保したうえで、友達同士の交流にのぞむことができるようにしたい。

(6) 指導と評価の計画 (5年生…8時間, 6年生…9時間)

		5年生	6年生
次	時	○学習活動・手立て, ●評価規準(記録に残す) ★評価規準(指導にいかす), []は観点, 下線は評価するもの	
1	1	○教師のモデルを見て単元のゴールを知り, 学習材を読み, 学習計画を立てる。 ・5年生と6年生の学習の目的を明確にして, 学習の振り返りから単元計画を立てられるようにする。 ・5年生は, テクノロジーの進歩についてどのような考えをもっているかまとめられるようにする。	
	2	・6年生は, 3人の職業・仕事の内容・プロフェッショナルとしてどう評価されているかなど大まかな内容をつかむことができるようにする。	
2	3	○教材文を読み, 要旨を考える。 ・要旨を捉えるためには, 文章構成図を作り, 事実と意見に着目しながら読むことを想起してから, 活動に入ることができるようにする。 ●教材文を正確に捉え, 要旨を書いているかの確認。 [知識・技能①] ノート	○3人のプロフェッショナルたちの生き方について整理する。 ・3人のプロフェッショナルたちの生き方についての文章を読み, 構成を捉えるようにする。 ●文章の構成を捉えているのかの確認。 [知識・技能①] シート
	4	○教材文の要旨を踏まえ, 自分の考えをまとめる。 ・筆者は, 「ごみ箱ロボット」の例と, 伝えたいことに関連付けに着目できるようにする。 ・納得した部分, 反対の意見をもった部分を考えながらまとめられるようにする。 ●本論の事例を要旨と結び付けながら, 考えを書いているかの確認。 [思考・判断・表現①] 交流, ノート	・3人のプロフェッショナルたちの, 職業について理由, 失敗や困難, そのときどのように考え, どう行動したかを読み, まとめられるようにする。 ●文章の構成を捉え, 3人のプロフェッショナルたちの生き方について整理しているかの確認。 [思考・判断・表現①] シート
	5 本 時	○資料「テクノロジーが見せる未来」を読み, 要旨を捉え, 自分の考えをもつ。 ・前時の学習を生かし, 要旨を捉え自分の考えをまとめられるようにする。 ●要旨を基に自分の考えをまとめているかの確認。 [思考・判断・表現②] 交流, ノート	○3人の「…が考えるプロフェッショナルとは」を読み比べ, 互いの感想を共有する。 ・「…が考えるプロフェッショナルとは」と, 3人の生き方から共通点を考えられるようにする。 ●互いの感想を共有することで, 自分の考えを広げることができたかの確認。 [思考・判断・表現②] 交流, ノート
3	6	○2つの文章を読み比べ, メモを作る。 ・2つの文章の, 具体例や要旨から相違点を考えられるようにする。 ・最初にしたテクノロジーの進歩についての考え方の変化や, 自分の経験や知識と比べて思ったことをメモに記録できるようにする。 ★自分の考えをメモにまとめているかの確認。 [思考・判断・表現②] メモ	○角浜の方を講師に, 身近なプロフェッショナルの話聞く。 ・2人のプロフェッショナルたちの生き方や, 考えを, 自分の考えと比較して聞くように促す。
	7	○メモを基に, 意見文を書く。 ●メモを基に意見文を書いているかの確認。 [思考・判断・表現②] 意見文	○自分が考えるプロフェッショナルとは何かを考え, 将来についての作文のメモを書く。 ・学習したことを生かして, プロフェッショナルについて考えるようにする。 ・言葉に気を付け, 構成を意識してメモを書けるようにする。 ★学習したことを基に, 適切な言葉を使ってメモを書いているかの確認。 [知識・技能] 意見文
	8 (6 年)		○メモを基に, 作文を書く。 ★メモを基に作文を書いているかの確認。 [知識・技能] 作文

8 (5年) 9 (6年)	<p>○書いた意見文を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げるために友達の意見文を読み、違いを見付け、良さを伝え合えるようにする。 ・見方の異なる文章を読むことや、考えの変容についての振り返りを通して、自分の考えの広がり気をつけるようにする。 <p>●考えの変容に触れ振り返りが書けたかの確認。 [主体的に学習に取り組む態度] 観察, ノート</p>	<p>○書いた作文を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げるために友達の作文を読み、友達の夢に共感し、感想を伝え合えるようにする。 ・考えの変容についての振り返りから、考えの広がり気をつけるようにする。 <p>●お互いの感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認。[思考・判断・表現②] ノート</p> <p>●考えの変容に触れ振り返りが書けたかの確認。 [主体的に学習に取り組む態度] 観察, ノート</p>
------------------------	--	---

3 本時について (5/8)

(1) 目標

5年生…資料「テクノロジーが見せる未来」を読み、要旨を基に、自分の考えをまとめることができる。

6年生…3人の「…が考えるプロフェッショナルとは」を読み比べ、互いの感想を共有することで、自分の考えを広げることができる。

(2) 指導について

5年生…要旨を1人で書いた後、4人で読み比べ、よりよい要旨を書く。その後、筆者の考えに賛成・反対・中立の立場に立ち意見を言う。意見を言った後、理由を言ったり、お互いに質問をし合ったりすることで、自分の考えが整理され考えの幅が広くなることに気付けるようにしたい。

6年生…自分の考えるプロフェッショナルについて交流する。友達が、誰のどんな部分に関心があったのかを考えながら聞くことで、友達と考えを共有したい。また、自分も考えた理由を話すことで、考えの整理や根拠の確信につなげたい。

(3) 本時の展開

5年生		6年生		
指導上の留意点 ●評価規準	学習活動	段階	学習活動	指導上の留意点 ●評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・共通導入を行い、どんな学習をしているのか確認し合う。 	<p>1 本時の確認 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料「テクノロジーが見せる未来」を読み、要旨を捉え、自分の考えをもつ。</p> </div>	<p>つかむ</p> <p>5分</p>	<p>つかむ</p> <p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通導入を行い、どんな学習をしているのか確認し合う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・『「弱いロボット」だからできること』の学習を確認する。 ・要旨が前時とは違うことを確認する。 ・③では、質問しあ 	<p>2 課題解決</p> <p>(1) 資料「テクノロジーが見せる未来」についての考えをまとめる手順を確認する。</p> <p>(2) 考えをまとめる。</p> <p>① 1人で要旨をまとめる。</p> <p>② 4人の要旨を比較検討</p>	<p>深める</p> <p>18分</p>	

<p>ったり感想を言い合ったりする時間を十分にとりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1次で紹介した教師のモデルも参考例とする。 <p>●要旨を基に自分の考えをまとめているかの確認。 [思考・判断・表現②] 交流, ノート</p>	<p>してまとめる。</p> <p>③自分の考えを話す。 (賛成・反対・中立)</p> <p>④自分の考えを書く。</p> <p>(3) 考えを交流し合う。 4人で読み合ったのち、4人の相違点について確認し、いいと思う考えを伝え合う。</p>	<p>深める</p> <p>17分</p>	<p>深める</p> <p>17分</p>	<p>(2) 3人のプロフェッショナルに共通している部分を考える。</p> <p>(3) 考えたことを書く。</p> <p>(4) 友達の書いたものを交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3人から共感したことや、誰の考えに共感したかを書く。
	<p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との交流を通して、よいと思ったことや考えが変わったことを書く。 自分の学び方についての振り返りを書く。 	<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との交流を通して、よいと思ったことや考えが変わったことを書く。 自分の学び方についての振り返りを書く。 	<p>●互いの感想を共有することで、自分の考えを広げることができたかの確認。 [思考・判断・表現②] 交流, ノート</p>

(4) 本時の評価規準

		おおむね満足 (B)	努力を要する児童 (C) への手立て
読むこと	5年生	資料「テクノロジーが見せる未来」の要旨を基に自分の考えをまとめている。	友達との交流で要旨を理解し、前時の資料との比較から考えるよう助言する。
	6年生	3人の「…が考えるプロフェッショナルとは」を読み比べ、互いの感想を共有することで、自分の考えを広げている。	友達の感想を聞き、自分の考えの参考にするように助言する。

単元分析シート 〈5・6年〉

学年	5年生	6年生
単元名	テクノロジーとの関わりについて考えをまとめよう	自分の生き方について考えよう
教材名	「弱いロボット」だからできること	プロフェッショナルたち
単元の中で身に付ける資質・能力 〔知識及び技能〕から一つ 〔思考力、判断力、表現力等〕の中の、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」から一つ、 「考えの形成」、「共有」の中から一つ	<p>〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 <p>(1)カ</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 <p>C (1) ア構造と内容の把握</p>	<p>〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 <p>(1)オ</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 <p>C (1) ア構造と内容の把握</p>
	<p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。 <p>C (1) オ考えの形成</p>	<p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 <p>C (1) カ共有</p>
	<p>「学びに向かう力、人間性等」</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。 	<p>「学びに向かう力、人間性等」</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。
	<p>確かに読んでいる姿</p> <p>〔知識・技能〕と〔思考・判断・表現〕の「構造と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「弱いロボット」だからできることと「テクノロジーが見せる未来」の論の進め方と要旨を理解し、まとめている姿。 	<p>確かに読んでいる姿</p> <p>〔知識・技能〕と〔思考・判断・表現〕の「構造と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> 3人が考えるプロフェッショナルについて理解し、まとめている姿。
	<p>思いや考えを広げている姿</p> <p>〔思考・判断・表現〕の「考えの形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの資料を読み比べ相違点をふまえた上で自分の考えをまとめている姿。 友達と考えを交流し、テクノロジーの進歩に関する自分の考えをまとめている姿。 	<p>思いや考えを広げている姿</p> <p>〔思考・判断・表現〕の「共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友達のを交流し、自分の生き方について考えをまとめている姿。
言語活動 (書くことで表現)	<ul style="list-style-type: none"> テクノロジーに関する意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業文集に載せる将来についての作文を書く。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動は、どちらも意見文を書く活動。学習内容についての自分の考えの交流となるため、考えを広げるためには、同学年での交流をした方がいいと考える。 5年生は、多面的な読みができるようになること。6年生は、教材文とパネルディスカッションをもとに自分の生き方について考えること。 	

算数 5・6年

九戸村立江刺家小学校 令和3年5月28日(金)

第5学年 かけ算の世界を広げよう
(東京書籍「新しい算数5上」P47)

第6学年 分数のかけ算を考えよう
(東京書籍「新しい算数6」P47)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○同単元類似内容指導の工夫

指導計画の工夫により、同単元類似内容指導を行った実践です。本時の問題を両学年共通で「1Lの値段が150円の水があります。この水□Lの代金は、何円ですか。」とし、□に入る数を5年生は小数、6年生は分数として考えさせます。これにより、同時直接指導(共通導入、共通終末)と同時間接指導で展開することが可能になっています。

類似内容指導は、異学年と一緒に学んでいるという実感をもたせやすく、学習意欲の向上につながります。また、下学年にとっては上学年への学びの広がりを感じることができますし、上学年にとっては見通しを立てたり、既習事項とのつながりを理解したりしやすくなるなど、両学年にメリットがあります。



毎時間、類似内容で揃えることができないものではありません。本実践は、教師の豊かな教材研究と綿密な指導計画、問題をアレンジする工夫によって実現しています。算数は系統性が強い教科ですので、このような指導ができる「チャンス」があります。カリキュラム・マネジメントの視点で、機を捉えて取り組みたいものです。

○授業後半の学習活動の充実

展開案の終末に、次のような学習活動が組み込まれています。

【5年生】⑧乗法の意味を広げて振り返る。

【6年生】⑧計算の意味を統合的に考察し、振り返る。

5年生では、単元の学習を通して乗法の活用場面が広がったことを明示的に指導しています。6年生では、小数と分数の関係と結び付けながら、統合的に捉えることができるようにしています。このように、授業後半での統合的・発展的に考える活動を通して、深い学びを実現していくことが重要です。タイムマネジメントを意識し、後半の学習活動に十分な時間を確保できるよう、メリハリのある展開を工夫したいものです。



直接指導の時間が限られている複式指導では、後半で学びを深める活動が難しいという声も聞かれます。これについて、今年度江刺家小学校で行われた学校公開での場面を紹介します。

5年生の速さの学習の終末の場面で、教師は「3つの公式、どれを覚えるとわかりやすいですか？」という発問を投げかけました。これまで学んできた速さに関わる3つの式を、統合的に捉えられるようにするための発問です。

時間が許せば、3つの式を並べてみて、目的に合わせて使い分ける大変さから、子供の困り感を引き出し、1つの式で十分だという発想を子供たち自身から引き出したいところですが、直接指導の時間が限られている複式指導ですので、このような直接的な発問としたものと考えます。

このような発問の工夫などにより、複式指導においても、授業後半で統合的・発展的に考えたりする活動を通して、深い学びにつなげていくことが大切です。

第5・6学年 算数科学習指導案

日 時：令和3年5月28日（金） 6校時

場 所：5・6年教室

児 童：第5学年 5名（男子4名 女子1名）

第6学年 8名（男子4名 女子4名）

指導者：藤原 正臣

1 単元名

5 学年	6 学年
かけ算の世界を広げよう (東京書籍「新しい算数5上」)	分数のかけ算を考えよう (東京書籍「新しい算数6 数学ヘジャンプ!」)

2 内容のまとめ

5 学年	6 学年
<p>A 数と計算 (3) 小数の乗法</p> <p>ア 知識及び技能 (ア) (イ) (ウ)</p> <p>(ア) 乗数が小数である場合の小数の乗法の意味について理解すること。</p> <p>(イ) 小数の乗法の計算ができること。</p> <p>(ウ) 小数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>イ 思考力・判断力・表現力等 (ア)</p> <p>乗法の意味に着目し、乗数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。</p>	<p>A 数と計算 (1) 分数の乗法</p> <p>ア 知識及び技能 (ア) (イ) (ウ)</p> <p>(ア) 乗数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法の意味について理解すること。</p> <p>(イ) 分数の乗法の計算ができること。</p> <p>(ウ) 分数の乗法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>イ 思考力・判断力・表現力等 (ア)</p> <p>数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。</p>

3 単元の目標

5 学年	6 学年
(1) 乗数が小数である場合の乗法の意味や小数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。また、小数の乗法の計算ができる。「知識及び技能」	(1) 乗数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法の意味や分数の乗法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。また、分数の乗法の計算ができる。「知識及び技能」
(2) 乗法の意味に着目し、乗数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。「思考力、判断力、表現力等」	(2) 数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えている。「思考力、判断力、表現力等」
(3) 小数の乗法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。「学びに向かう、人間性等」	(3) 分数の乗法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。「学びに向かう、人間性等」

4 単元について

5 学年	6 学年
<p>(1) 児童について (略)</p> <p>(2) 教材について 本教材は、乗数が小数の場合にも乗法が用いられるように意味を広げることがをねらいとしている。</p> <p>(3) 指導について 児童に小数の乗法について確実に理解させるために、「乗法の性質に着目し、筆算の仕方を考える」「計算法則を活用し、計算の仕方を工夫する」ことを重視しながら指導したい。</p>	<p>(1) 児童について (略)</p> <p>(2) 教材について 本教材は、分数の乗法の計算の仕方を考え、それらの計算ができるようにすることや数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目し、多面的に捉え、計算の仕方を考える態度や能力を高めることをねらいとしている。</p> <p>(3) 指導について 児童に分数の乗法についての理解を深めさせるために、「計算の性質に注目し、計算の仕方を考える」ことを重視しながら指導したい。</p>
<p>(4) 研究との関わり(本時の指導に関わって) 「手立て1 子どもの問い(課題)を引き出す問題の設定と課題解決の見通しを共有する活動」 教科書では、5年生は土の量と重さ、6年生はロープの長さと値段として日常の事象から算数の問題を見いだすように設定されている。本時は、問題構造が同じことから、共通導入として、共通問題を設定した。九戸村で製作されたペットボトル水を題材とし、量と値段から問題を見いだすようにした。身近な事象であることから関心を持って問題に取り組むことができるであろう。また、量を□(6年生はx)とし、自ら数値を決め、問題を解決していくようにしている。自分と友達の考えを見比べていくことで、乗数と積の大きさの関心に焦点化していき、問い(課題)を引き出したい。また、課題解決の見通しとして、自分が決めた数値によって立式をして求めた積について本当に合っているのか問い返し、数直線を使って確かめていくという見通しをもたせたい。</p>	
<p>「手立て2 『数学的な見方・考え方』を働かせ、根拠を基にして筋道立てて考察する活動」 本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」は、乗数と積の大きさの関係である。また、数直線を活用して数量の関係から純小数(6年生は真分数)をかけると積が被乗数より小さくなることを考察することである。今まで5年生の児童は、かけ算の意味から積は被乗数より大きくなることを経験してきた。本時で初めて積が被乗数より小さくなることを知ることになる。児童の考えから乗数が1より小さい数が出てこない場合は、教師から提示する。多くの事象から数量の関係(乗数と積の大きさの関係)に着目して見ていくことで、どの事象も乗数の大きさによって、積が被乗数よりも大きくなるか小さくなるかが決まっていることに気付かせたい。</p>	
<p>手立て3 自分の高まりや学習の価値を振り返る活動」 純小数をかけると積が被乗数より小さくなることから、改めて、かけ算とは何かを問いかける。単元の導入でも、これまでかけ算は、一つ分の大きさ×いくつ分(倍)の大きさとして捉えてきたことをふり返った。本時で、乗法の意味について捉え直す(基準とする大きさの割合に当たる大きさを求める)ことで、純小数をかけるときもかけ算が使えることを実感させたい。</p>	<p>「手立て3 自分の高まりや学習の価値を振り返る活動」 児童は、これまでの学習や本時の5年生の学習から、分数をかける乗法も小数をかける乗法と同じであることを見いだすことが可能であろう。小数で学習した比例の関係を根拠にした計算の仕方から捉える児童が多いのではないかと考える。本時は、それだけでなく、小数と分数では数の表し方の仕組みは異なるけれども、$a \div b = \frac{a}{b}$という関係で捉えると同じだということから、分数に固有の計算の性質を活用して、計算の仕方を考えると、分数を小数に変換して求めると、どちらも積の大きさが同じことから、小数と分数のつながりを見いだしたい。</p>

5 単元の評価規準

	5 学年	6 学年
知・技	①乗数が小数である場合の乗法の意味について、乗数が整数である場合の計算の考え方を基にして、理解している。 ② $\frac{1}{100}$ の位までの小数の乗法の計算ができる。 ③小数の乗法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。	①乗数が整数や分数である分数の乗法の意味について、小数の乗法の計算の考え方を基にして、理解している。 ②分数の乗法の計算ができる。 ③分数の乗法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。
思・判・表	①乗数が小数である場合まで数の範囲を広げて、小数を用いた倍の意味などをもとに、乗法の意味を捉え直している。 ②小数の乗法について、小数の意味や表現をもとにしたり、乗法に関して成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に考えている。 ③小数の乗法の計算を用いて、日常生活の問題を解決している。	①分数の乗法について、数の意味と表現をもとにしたり、乗法に関して成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に捉え考えている。 ②整数や小数の乗法を分数の場合の計算にまとめている。
態度	①学習したことをもとに、小数の乗法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に考え検討したりしようとしている。 ②小数の乗法の計算の仕方を振り返り、筆算での処理に生かそうとしている。 ③小数の乗法の計算に、乗法に関して成り立つ性質などが有効に働いていることよさに気付き、学習に活用しようとしている。	①学習したことをもとに、分数の乗法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に捉え検討したりしようとしている。 ②整数や小数の乗法を分数の場合の計算にまとめることができるよさに気付き、学習に活用しようとしている。

6 指導と評価の計画

【5 学年：全10時間】

時	ねらい 研究との関わり	評価基準・評価方法等		
		知	思	態
1	小数をかけることの意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 手立て1 手立て2		・思① 行動観察 ノート分析	・態① 行動観察 ノート分析
2	整数×小数の計算の仕方を、数直線を用いて考え、説明することができる。 手立て2 手立て3	・知① ノート分析		
3・4	小数×小数の計算の仕方を、乗法の性質を基に考えることを通して、小数×小数の筆算の仕方を理解する。 手立て1 手立て2	・知① ノート分析	○思① 行動観察 ノート分析	・態② ノート分析
5	小数×小数の筆算(末尾の0を処理したり、0を補ったりする場合)の仕方を理解し、答えを求めることができる。 手立て2 手立て3	・知② ノート分析	・思② 行動観察 ノート分析	
6 本時	純小数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解し、説明することができる。 手立て1 手立て2 手立て3	・知① ノート分析	・思②③ 行動観察 ノート分析	

7	長方形や直方体の辺の長さが小数の場合も、面積や体積の公式を適用できることを理解し、説明することができる。 手立て1 手立て2	・知③ ノート分析	・思②③ 行動観察 ノート分析	
8	整数について成り立つ交換、結合、分配法則は、小数の場合でも成り立つことを帰納的に考え、説明することができる。 手立て1 手立て2 手立て3	・知③ ノート分析	○思②③ 行動観察 ノート分析	・態③ ノート分析
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 手立て2 手立て3	・知①②③ ノート分析		○態①②③ ノート分析
10	学習内容の定着を確認する。	○知①②③ ペーパー テスト	○思② ペーパー テスト	

【6学年：全14時間】

時	ねらい 研究との関わり	評価基準・評価方法等		
		知	思	態
1・2	分数×整数の計算の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。 手立て1 手立て2 手立て3	・知① ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	・態① ノート分析
3	分数÷整数の計算の意味や計算の仕方を考え、その計算ができる。 手立て1 手立て2	・知① ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
4	分数÷整数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 手立て2 手立て3	・知① ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
5	学習内容を適用して問題を解決する。 手立て2	・知①② ノート分析		
6	分数をかけることの意味を図や式を用いて考え、説明することができる。 手立て1 手立て2		・思① 行動観察 ノート分析	○態① ノート分析
7	真分数×真分数の計算の仕方を、図や式を用いて考え、説明することができる。 手立て2 手立て3	・知① ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
8	計算の途中で約分できるときは、途中で約分すると簡単に計算できることを理解する。 分数の連乗の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 整数×分数の計算や、帯分数の乗法計算の仕方を理解し、その計算ができる。 手立て2 手立て3	・知② ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
9 本時	真分数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解する。 手立て1 手立て2 手立て3	・知① ノート分析	・思①② 行動観察 ノート分析	・態② ノート分析
10	辺の長さが分数の場合も、面積や体積を求める公式を適用できることを理解する。 手立て1 手立て2	・知③ ノート分析		
11	整数や小数について成り立つ交換、結合、分配法則は、分数の場合でも成り立つことを理解する。 手立て1 手立て2 手立て3	・知③ ノート分析		

1 2	逆数の意味とその求め方を理解する。 手立て2	・知② ノート分析		
1 3	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 手立て2 手立て3	・知①②③ ノート分析		○態①② ノート分析
1 4	学習内容の定着を確認する。	○知①②③ ペーパー テスト	○思① ペーパー テスト	

7 本時の指導

(1) 目標

5 学年	6 学年
<p>【数学的な見方・考え方を働かせ】 乗数と積の大きさの關係に着目し、 【数学的な活動を通して】 場面を表した数直線図を基に、純小数をかけると積が被乗数より小さくなることを考察する活動を通して、 【数学的に考える資質・能力を育成する】 乗法の意味の拡張を図り、純小数をかけるときも、乗法が使えることを理解する。(思考・判断・表現)</p>	<p>【数学的な見方・考え方を働かせ】 乗数と積の大きさの關係に着目し、 【数学的な活動を通して】 場面を表した数直線図を基に、真分数をかけると積が被乗数より小さくなることを考察する活動を通して、 【数学的に考える資質・能力を育成する】 乗法の適用される数として分数でも計算することができることを捉え、分数の乗法が小数の乗法と計算の仕方が同じだということを理解する。(思考・判断・表現)</p>

(2) 展開

5 学年		6 学年			
指導上の留意点 ◆研究の重点	学習活動	直	直	学習活動	指導上の留意点 ◆研究の重点
		間	間		
<p>◆手立て1 乗数を児童自ら決めていくことで、様々な数量の關係から積と乗数の大きさの關係に着目していく。</p> <p>・ここでは、根拠を問わない。</p> <p>◆手立て1 立式の根拠を問い、数直線を使っていくという見通しをもつことができるようにする。</p>	①場面から数学的な問題を設定する。			①場面から数学的な問題を設定する。	<p>・数値については、それぞれ児童が設定した数値とする。5年生では純小数、6年生では真分数が出てこない場合は、教師から提示する。</p>
	<p>1 Lの値段が150円の水があります。この水□Lの代金は、何円ですか。</p> <p>②立式し、答えを求める。</p> <p>③学習課題を設定する。</p>			<p>②立式し、答えを求める。</p> <p>③学習課題を設定する。</p>	
				<p>数直線図を使って、水の量と代金の關係を説明しよう。</p>	
		直 15分	直 15分		

<p>・自分の立式の根拠をワークシートにまとめる。</p> <p>・ワークシートを黒板に張り出し、説明する。</p> <p>◆手立て2 乗数と積の大きさの関係に着目し、純小数をかけると、積が被乗数より小さくなることを考察で明らかにする。</p>	<p>④自力解決をする。</p> <p>⑤全体で交流する。</p> <p>⑥どこに注目すると、基(1L)となる水の値段より高いか安いかが判断することができるのか考える。</p>	<p>間 1 5 分</p>	<p>間 1 5 分</p>	<p>④自力解決をする。</p> <p>⑤全体で交流する。</p> <p>⑥どこに注目すると、基(1L)となる水の値段より高いか安いかが判断することができるのか考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④⑤⑥活動 思・判・表 【行動観察】 【ノート分析】</p> </div> <p>◆手立て2 乗数と積の大きさの関係に着目し、真分数をかけると、積が被乗数より小さくなることを考察で明らかにする。</p>
<p>・本時の問題解決の課程を振り返り、問題を解決するために用いた数学的な見方・考え方を明らかにして、価値づける。</p> <p>◆手立て3 乗法を基準にする大きさの割合に当たる大きさを求めるとい意味で捉え直し、純小数をかけるときも乗法が使えることを確かめる。</p>	<p>⑦課題についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かける数の大きさに注目すると、積とかけられる数の大きさの関係が分かる。 かける数>1のとき、積$>$かけられる数 かける数$=1$のとき 積$=$かけられる数 かける数<1のとき 積$<$かけられる数</p> </div> <p>⑧乗法の意味を広げて振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かけ算は、□を1とみたとき、○にあたる大きさである。 だから、1より小さい数にあたる大きさを求める時も、かけ算が使える。</p> </div>	<p>直 1 5 分</p>	<p>直 1 5 分</p>	<p>⑦課題についてまとめる。</p> <p>⑧計算の意味を統合的に考察し、振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>分数をかけるかけ算も小数をかけるかけ算と同じなのは、数直線を使って考えたり、分数\leftrightarrow小数と変換したりできるから。</p> </div>	<p>◆手立て3 本時の問題を解決するために用いた数直線から、分数の乗法と小数の乗法の意味を統合的に捉える。</p> <p>・分数と小数のつながりが見えやすい数直線を用いて考える。 例0.8と$\frac{4}{5}$など。</p>

(3) 評価規準

	5 学年	6 学年
概ね満足な状況 (B)	純小数をかけると積が被乗数より小さくなることについて数直線を基に考え、説明している。	真分数をかけると積が被乗数より小さくなることについて数直線を基に考え、説明している。
努力を要する児童への支援	数直線を基に、乗数の1を基準として、積と被乗数の大小関係に着目させる。	数直線を基に、乗数の1を基準として、積と被乗数の大小関係に着目させる。

複式指導における数学的活動の具体化と実践記録



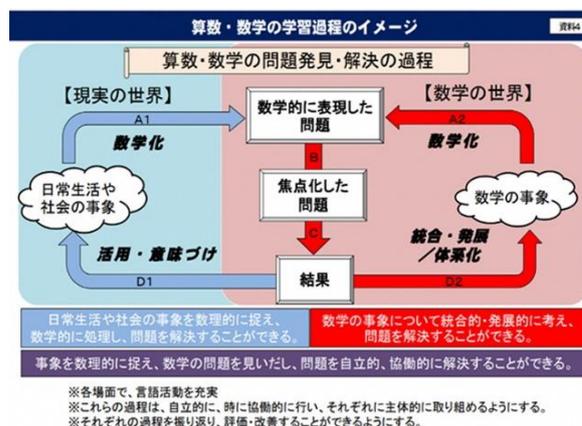
- 本実践は、「乗数と積の関係に着目し、数直線図を活用して純小数や真分数をかけたときの積の大きさを比較する活動を通して、乗法の意味の拡張を図り、分数と小数の大きさの関係を確かめる」ことをねらいとしています。
- 指導計画の工夫で同時直接指導（共通導入、共通終末）と同時間接指導を組み入れることによって、複式指導における数学的活動を具体化する方策を実践記録としてまとめてあります。

授業の実際

【A1：数学化】「日常生活や社会の事象」を「数学的に表現した問題」にする過程

※ 同時直接指導（共通導入）

- T：これ知っていますか？
 C：GO九っ戸！
 T：何L？
 C：1L？1.5L？
 T：1Lです。
 T：今、九戸村でとれたこの水を売り出そうとしていることを知っていますか？
 C：はい。知っています。
 T：商品の名前やデザインについて、みなさんも考えましたもんね。
 T：さて、みなさんならいつもおいしく飲んでいるこの水1Lをいくらか売り出しますか？
 C：100円、150円、180円…。
 T：間を取って150円にしましょう。では、そこまで一緒に書きますよ。
板書「九戸村では、「GO九っ戸」1Lの値段を150円で売り出そうとしています。」
 T：ペットボトルって1Lだけではありませんね。他には？
 C：2L、1.5L、500mL、350mL、4L…。
 T：そうですね。いろいろありますね。
 T：九戸村では、1Lだけでなく他の量のペットボトルも売り出そうと考えているみたいです。
板書「□(X)Lでは、何円ですか？」



【B：問いの焦点化】「数学的に表現した問題」から「焦点化した問題(学習課題)」を見いだす過程

※ 同時直接指導

- T：何Lなら、簡単に求められますか？
 C：2L
 C：150×2=300円で簡単。
 C：整数なら簡単。暗算でもできそう。
 T：それなら、みんなにも□の中に入れる数を決めてほしいです。5年生はどんな数を入れますか？
 C：今、小数を勉強しているから、小数で。
 T：6年生は？
 C：それなら分数でしょ。
 T：少し時間を取るのので、好きな数を入れて値段を求めてみてください。

※ 同時間接指導～自力解決1：板書（児童）

5年	6年
$150 \times 1.5 = 225$	$150 \times 3 \div 5 = 90$
$150 \times 2.5 = 375$	$150 \times 1 \div 5 = 30$
$150 \times 6.2 = 3162$	$150 \times 3 \div 10 = 45$
$150 \times 9.9 = 1485$	$150 \times 4 \div 5 = 120$
$150 \times 0.6 = 90$	$150 \times 2 \text{ と } 2 \div 5 = 360$
$150 \times 0.9 = 135$ など	$150 \times 1 \text{ と } 1 \div 2 = 225$ など

- T：黒板にいろいろな式が並びましたが、本当に合っていますか？
- T：かけ算しているのにもとの値段の150円より安くなっている式があるけど…。
- T：かけ算すると、答えはもとのかけられる数より大きくなるのではないですか？
- C：合っていると思うけど…。
- C：数が大きいと150円より値段が高くなっています。※ 5年生から指名する。
- C：分数や「0.いくつ」の時に安くなっています。
- C：分数でも帯分数の時は、150円より高くなっています。
- C（6年）：1より小さい数をかけると150円より安くなると思います。
- T：なるほど…。意見がたくさん出てきましたが、計算式だけでは、迷っている人もいますね。式の意味や答えの大きさを確かめるためには、どのように考えればよいですか？
- C：式や答えを数直線図に表して確かめればはっきりすると思います。
- C：かける数がどんな数の時に、答えがどうなるか対応を確かめればいいです。
- C：かける数と答えの大きさの関係を調べればいいと思います。
- T：みなさんの考えた式や答えを数直線図に表して、もとのかけられる数である150円より安いか高いかをはっきりさせましょう。
- T：かける数はこの問題では何に当たりますか。
- C：水の量です。
- T：答えの数は。
- C：値段です。
- T：では、水の量（かける数）と値段（積）の関係について、数直線図に式や答えを表して確かめていきましょう。
- 課題板書「数直線図に表して水の量（かける数）と値段（積）の関係を確かめよう。」
- T：5年生は、先ほどの計算結果をもう一度みんなで作かめながら、この数直線図に表してください。
- T：6年生は、こっこの数直線図に。みんなで作かめしてもいいし、学習リーダー中心に相談しながら、課題についての考えを出し合って自分たちで解決してください。
- 配付：数直線図④×2（1L150円の位置は決めておき、整数間に10等分のメモリを入れておく。）

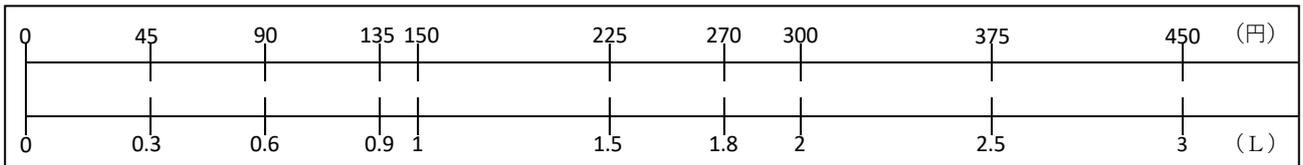
【C：一応の解決結果】「焦点化した問題(学習課題)」の「一応の解決結果を共有」する過程

※ 同時間接指導～自力解決2 グループ協議（学習リーダーが中心に進める）

→ 基本は5年生につくようにする。

5年

- ①：まずは、さっきの式や答えを自分のノートの数直線図に表してください。
- ②：それぞれの計算結果を協力して大きな数直線図に表してください。



⑨：数直線図を見て気付いたことを発表してください。

C：グループで分かったことを交流し合う。

※ 6年生も同様に行う。

→ 6年生には、分数の数直線上の位置について助言するようにする。

【5年生：直接指導】

T：数直線図に表してみても、水の量（かける数）と値段（積）の関係について何か確かめられたことがありましたか？

C：水の量が1Lより多いか少ないかで元の150円より高くなるか安くなるかが変わってくるのが分かりました。

T：数直線図のどこからそのことが言えますか。図を使って説明してください。

C：例えば、1Lで150円のところのすぐ左に0.9があります。0.9Lだと 150×0.9 で求められるので、135円となり、150円より安くなります。同じように考えると、0.6Lだと90円、0.3Lだと45円となり、水が1Lより少ないと値段は元の150円より安くなります。

C：1Lで150円の右を見ていくと、水の量は1より多くなっていくので、例えば1.5Lだと 150×1.5 で求められるので、225円となり、150円より高くなります。同じように考えると、1.8Lだと270円、2.5Lだと375円となり、水が1Lより多いと値段は元の150円より高くなります。

C：かける数が1より大きい小さいかで、積がもとになる1Lの値段より大きくなるか小さくなるかが決まります。

T：ということは、積である値段は何で決まるということですか？

C：1Lの値段は変わらないので、かける数、水の量で決まります。

T：かける数と積の関係をまとめるとどういうことが言えますか。自分の言葉でノートに書いてみてください。大体書けたころに交流して、みんなで黒板にまとめてみてください。

→ 6年生に行く。

6年 ※ 5年生と同時スタート

⑨：まずは、さっきの計算を自分のノートの数直線図に表してください。

⑩：それぞれの計算結果を協力して大きな数直線図に表してください。

数直線図 略

⑨：数直線図を見て気付いたことを発表してください。

C：グループで分かったことを交流し合う。

※ 5年生と同様の気付きについて、自分たちでまとめることが理想的な段階である。

→ 分かったことを共有できた頃合いを見計らって直接指導を行うようにする。

【6年生：直接指導】

T：課題についての考えはまとまりましたか。

C：いろいろな水の量とその値段を数直線図に表してみると、水の量が分数で表されていても1Lより多いか少ないかで値段が元の値段より高いか安いかが分かることが分かりました。

T：図を使って具体的に説明してください。

C：説明 (略)

T：T：今日の6年生の課題は、かける数が分数の時のかける数と積の関係でしたね。どんな関係と

ということが言えますか。「1」を大切に、ノートにまとめてみてください。大体書けたころに交流して、みんなで黒板にまとめてください。

→ 5年生に行き、6年生のまとめり具合を見計らいながら、なるべく多くの児童がまとめのこたばを発表する時間とする。

【D2：統合・発展／体系化】「解決結果の共有」から「概念を広げたり深めたりする」のする過程

※ 同時直接指導（配付した数直線図④×2を縦に並べて黒板に貼る。）

T：お互いのまとめを比べてみて、気づいたことはありますか？

C：どちらもかける数が1より小さいと積はかけられる数より小さくなり、かける数が1より大きいと積はかけられる数より大きくなるのが同じです。

C：分数でも小数でも同じことが言えることが分かりました。

T：5年生は、計算の仕方はまだ分からないけど、数直線上の分数を見て、小数でも分数でも関係は変わらないことに何となく気付けたのですね。

T：みんなで作った小数の数直線図と分数の数直線図を比べて、何か気付いたことはありませんか。

C：かける数が0.3Lのところと3/10Lのところどちらも45円です。

※ 定規等で縦をそろえながら視覚的に比較しながら確かめるようにする。

T：他にも同じ値段のところはないですか。

C：0.6Lと3/5Lも同じく90円です。

C：3/5を3÷5とみると、0.6になります。

C：1.5Lと「1と1/2L」も同じ225円です。

T：どうして小数と分数で違うのに、値段が同じになっているところがあるのですか？

C：1を10等分した1つ分は、0.1とも1/10とも表せます。どちらもその3つ分と言えるので、0.3=3/10です。

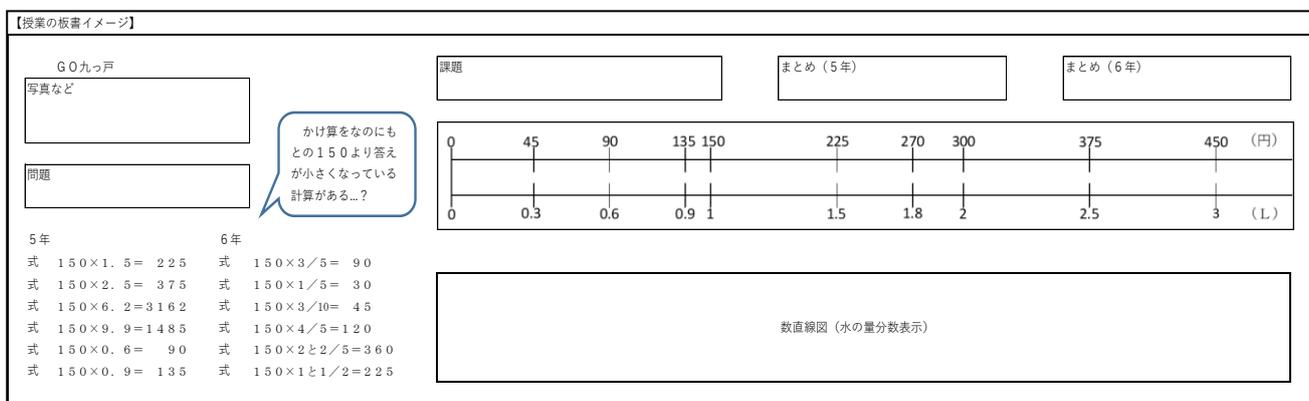
C：1.5は1と0.5なので、1/2は0.5なので同じ大きさです。

T：そうでしたね。小数と分数が同じ大きさを表すことがあることも確かめられましたね。数直線図に表して比べると、式よりも大きさがはっきりとわかるよさがありますね。

T：今日は、九戸の「GO九っ戸」を題材に、かける数と積の関係や分数と小数の関係についてより深く学ぶことができましたね。この時間で学んだことを一人一人振り返って、自分のノートに整理しましょう。

C：ノートに自分の学んだことを整理・表現する。

→ 5年生、6年生両方の振り返りをノート展覧会で交流するようにし、時間を見て、紹介するようにする。



※ この板書をベースにして、子どもたちの様々な気づきやねらいにつながる価値ある見方・考え方を書き込んでいくようにする。

複式指導資料第35集（令和3年度）
いわての複式指導実践事例集

-----協力校（事例順）-----

花巻市立笹間第二小学校
一関市立興田小学校
釜石市立栗林小学校
岩泉町立大川小学校
洋野町立角浜小学校
九戸村立江刺家小学校

-----作成協力（事例順）-----

中部教育事務所 指導主事 高橋 勇樹
県南教育事務所 指導主事 小野寺 良明
沿岸南部教育事務所 主任指導主事 木下 克美
宮古教育事務所 主任指導主事 熊谷 純
県北教育事務所 主任指導主事 坂本 真
県北教育事務所（九戸村）指導主事 小林 龍

参考資料

複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド（岩手県立総合教育センター）



岩手県教育委員会事務局学校教育室

<https://www.pref.iwate.jp/index.html>

トップページ > 教育・文化 > 教育 > 学校教育 > 小学校・中学校教育 > 小規模・複式指導について

